

学校の今に寄り添い、先生方とともに未来を描く

[ビューネクスト] 高校版

VIEWnext

2021
December

12

特集

地域連携の あり方を問う

大阪府立農芸高校

新課程に向けて描く
「学校教育デザイン」

発問・課題設定をキーに見る
主体的・対話的で深い学び 授業実践

美術

愛媛県立三島高校
内海篤彦

国語

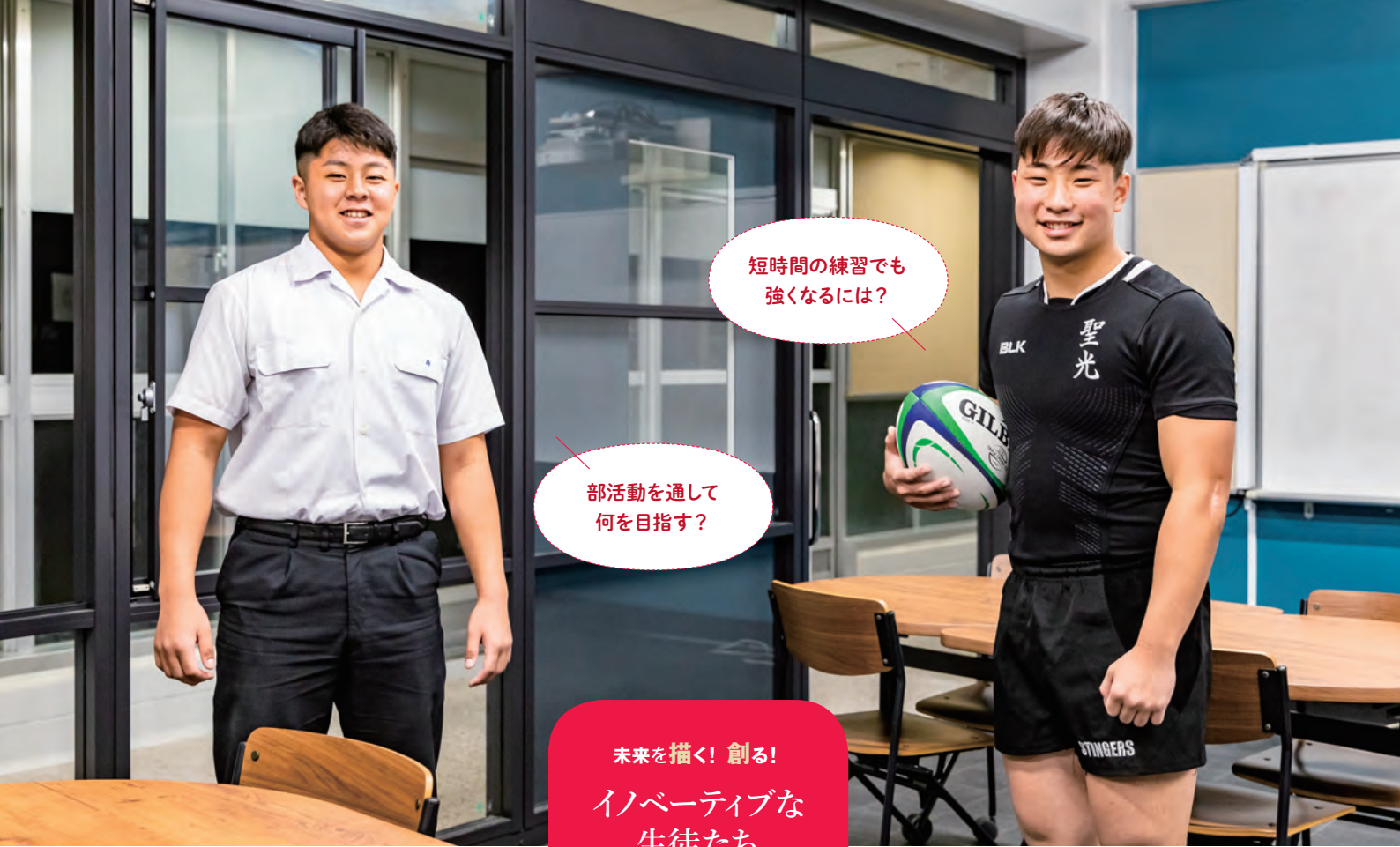
大分県立大分舞鶴高校
佐藤秀信

Photo Session at Cover

山梨県立

甲府第一高校





短時間の練習でも
強くなるには？

部活動を通して
何を指す？

未来を描く！創る！
イノベティブな
生徒たち

第4回

週3日、短時間の練習でも「花園」へ。 目指したのは「最も記憶に残るチーム」

うえやなぎしょう た **上柳政太**さん・高校2年生(左) / えい **丸尾 瑛**さん・高校3年生(右)

静岡県・私立静岡聖光学院中学校・高校

創

部31年目の2009年に初めて全国高等学校ラグビーフットボール大会の出場を果たして以来、21年12月27日から開催される第101回大会を含めて7度、東大阪花園ラグビー場へのチケットを手

にしてきた静岡聖光学院高校ラグビー部。文武両道を掲げる同校では、練習日は火・木・土曜日の週3日で、練習時間も夏季90分・冬季60分と極めて短時間だ。

キャプテンの丸尾瑛さんは、「目の前の練習をこなすだけでなく、自分たちで練習中に課題を見つけ、プレーの質を高めるように常に心がけている」と、強さの秘密を説明する。水分補給時には全力疾走で集合し、補水しながら部員同士でプレーを振り返り、課題と改善策を即座に考え、実行する。また、学年の違いを気にせずに意見を言い合えるように、部員同士は互いを常に呼び捨てだ。

部員の主体性が尊重されていることも、同部の特徴の1つだ。短い練習時間の中にも、各自が自分に必要だと考えた練習に取り組み「主体練」の時間が確保されている。また、キャプテンのほかに、海外チームとの渉

先生がご存知の「イノベティブな生徒たち」をご推薦ください！

ご推薦いただける場合は、右の二次元コードをスマートフォン等で読み取っていただき、フォームに沿ってご推薦内容をご入力ください。



教師たち



静岡県・私立
静岡聖光学院
中学校・高校
アカデミア部部长
保健体育科主任
高校ラグビー部監督
奥村祥平

まずは教師が、自身の 成功体験を手放す

本校の部活動の練習時間は、確かに短いです。しかしどの部も、できないことを挙げて言い訳をするのではなく、今の環境でできることを考え、実行しようとしています。ラグビー部では、陸上競技の指導者やメンタルコーチなど、様々な専門家に協力を仰ぎ、勝つために自分たちに必要な練習を追究しています。生徒には、「これで勝てたら日本の高校スポーツ、日本の教育が変わるよ。ワクワクするね」と話しています。

ラグビーの強豪校出身である私には、自分なりの成功体験や価値観がありました。しかし、生徒主体であるためには、そうしたものを手放すことも必要でした。指導者自身が成長し続けようという思いを持つこと、そして、生徒自身が、よかったこと、不足していることを振り返り、次の行動につなげることができると、チームは、チャレンジした数だけ強くなるのだと思います。

外担当やデータ分析担当など、部活動の運営上で必要な役割や、スクラムやモールといったプレーごとのリーダーが決められており、全員が必ず1つ役割を担う。練習試合などで来校した他校のチームが心地よく過ごせるように心を込めた待遇を行い、遠征先では整理・整頓・清掃を徹底する「オフ・ザ・グラウンド・リーダー」を務める上柳政太さんは、「監督が部員に任せてくれる分、自分たちがしっかりとやらなければいけないと責任を感じる」と話す。

「ラグビーを通して何を目指すのかを語り合い、目標をそろえていきます。今年度の私たちの目標は、『最も記憶に残るチーム』になることです。それは、今年2月の県の新人戦で3位にとどまり、このままでは誰の記憶にも残らないチームで終わってしまうという危機感があってからです。でも、ここから勝ち上がれば、多くの人の記憶に残るチームになれる。そのために、一人ひとりがすべきことを考え、行動しよう」と話し合いました。

「部室の掃除1つをとっても、『このくらいで十分だ』と考える人もいれば、『もっと細部にこだわろう』という人もいます。そうした意識のズレを見逃さず、『そもそも僕たちが目指していることは何だろう』『部室の掃除にはどんな意味があつて、目標達成のためにはどこまでするべきなのだろうか』と話し合えるのが、真のチームです。相手の話を聞き、自分の考えを伝え、意見が違えば話し合う。相手が先輩であってもそれは変わりません」（上柳さん）

互いの長所を認め合う雰囲気をつくることで、誰もが臆せず意見を言え、異論を受け入れる風土が生まれると2人は言う。また、部員同士の話し合いが円滑に進まない時、大人数の前ではなかなか意見を言えない部員がいるからだと分かれば、まずは2、3人で意見を出し合ってから全体で議論するなど、話しやすい環境になるように工夫もする。

丸尾さんは、部活動で培った協働的な課題発見力や問題解決力を生かして、大学ではまちづくりなどに関するコミュニケーションデザインを学びたいと考えている。上柳さんが志望するのは、留学生など、多様な価値観を持った人たちと現代社会の問題について議論できる環境が整った大学だ。同じ目標を目指す部員たちが対話を重ねながら培った力は、予測困難なこれからの社会をよりよく変革する力となって花開くだろう。

学校プロフィール

設立 1968（昭和43）年
形態 全日制／普通科／男子校
生徒数 1学年約80人
2021年度入試合格実績（現役のみ）
国公立大は、千葉大、静岡大、広島大、国際教養大などに7人が合格。私立大は、上智大、東京医科大、東京理科大、日本医科大、同志社大などに延べ157人が合格。海外大学に6人が合格。

3 特集

地域連携のあり方を問う

19 For School Section

- 20 新課程に向けて描く「学校教育デザイン」
大阪府立農芸高校
- 24 — 疑問や課題を解決! 実践につながる! — 新課程レポート
新課程1期生入学に向けた「情報I」の準備
- 28 指導変革の軌跡
青森県・私立東奥義塾高校
- 32 輝く学年団を訪ねて
福岡県立朝倉高校 1学年団
- 36 学校危機管理 基礎講座
テーマ 教師・生徒の健康管理

39 For Teacher Section

- 40 発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践
- 40 美術 愛媛県立三島高校 内海篤彦
- 44 国語 大分県立大分舞鶴高校 佐藤秀信
- 48 SDGsの視点で見る大学の学び
- 48 目標4 山梨大学
教育学部 幼小発達教育コース 高橋英児研究室
- 50 目標14 北海道大学
水産学部 海洋生物科学科 生産生態学研究室
- 52 これからの進路指導のための世の中トレンド解説
トレンド・ワード 心理的安全性
- 56 誌上で見学 学びのnext
クロスカリキュラム 山梨県立白根高校

- 巻頭 未来を描く! 創る! イノベティブな生徒たち
丸尾 瑛さん(高校3年生) 上柳政太さん(高校2年生)
静岡県・私立静岡聖光学院中学校・高校
- 38 データから考える! 指導のnext
ピックアップデータ 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所
「子どもの生活と学びに関する親子調査」
- 64 Reader's VIEW

<https://berd.benesse.jp>

本誌記事は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでもご覧いただけます。

印刷製本/(株)協同プレス 編集協力/(有)ペンダコ 執筆協力/中丸 満、二宮良太、長谷川敦 撮影協力/荒川 潤、鍋坂樹伸、福山 哲、ヤマグチイッキ

※本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます。 ※本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます。 ©Benesse Corporation 2021

地域連携の あり方を問う

2021年も残りあとわずか。2022年は、いよいよ高校で新学習指導要領が実施されます。今回の改訂では、「社会に開かれた教育課程」の実現が求められていますが、それは、“よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る”という理念を学校と社会とが共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育むことを意味しています。学校や生徒にとって最も身近な社会は“地域”です。実際、多くの学校が、探究学習を中心とした教育活動において、地域と連携・協働しています。一方で、全国の高校教師を対象にしたベネッセ教育総合研究所の調査(*)では、約73%が「外部機関との連携が難しい」と回答するなど、社会との連携に難しさを感じている学校・教師も少なくありません。そこで、本特集は、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、どのような地域連携を目指すとよいのか、地域連携を推進する上で生じる問題をどのように解決していけばよいのか、先進校の先生方とともに考えました。ぜひ、ご一読ください。

VIEWnext編集部 統括責任者 柏木 崇

P.4 地域連携のあり方を問う ―座談会―

埼玉県立小川高校 教頭 篠田俊文 / 熊本県立熊本工業高校 土木科科长 さるわたり 猿渡和博 /
宮崎県立都城西高校 みやまのしやうにし フロンティア科主任 えりい 福田映李

P.4 現状整理

取り組みが広がる一方で、課題も多い地域連携

P.6 実践紹介1 埼玉県立小川高校

地域を「活かす」学びを各教科の授業で展開し、探究を深める

P.8 実践紹介2 熊本県立熊本工業高校

地域の産学官が連携し、災害対応型エンジニアの育成プログラムを構築

P.10 実践紹介3 宮崎県立都城西高校

生徒が直接企業とかかわり、地元企業が抱える課題に取り組む探究学習を推進

P.12 見解提示

活動の目的や生徒の変容を、かかわるすべての人と共有し、連携上の課題を乗り越える

P.16 本特集テーマのnext

学校と地域をつなぎ、双方の課題に協働して取り組む「コーディネーター」
認定NPO法人カタリバ職員、大槌町教育委員会教育専門官 かんの 菅野祐太

*ベネッセ教育総合研究所「高校教員調査」(2021年8～9月実施、回答者数3,214人)

地域連携のあり方を問う

座談会

埼玉県立小川高校 教頭 篠田俊文

熊本県立熊本工業高校 土木科科長 猿渡和博

宮崎県立都城西高校 フロンティア科主任 福田映李

「社会に開かれた教育課程」を実現する上でも重要な「地域連携」。先進的に地域連携に取り組んできた3校の教師が、あるべき地域連携の姿と、その実現に必要な視点について語り合った。

現状整理

取り組みが広がる一方で、課題も多い地域連携

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて必要な地域連携

編集部 新学習指導要領における重要な事項の、すべての基盤となる考え方が、「社会に開かれた教育課程」です。それは、「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と社会とが共有し、連携・協働しながら、生徒に必要な資質・能力を育むこと

を目指すものです。近年、多くの高校が、学校や生徒にとって身近な社会である地域と連携した教育活動、いわゆる「地域連携」に取り組んでおり、『VIEWnext』高校版の読者モニターを対象に実施したアンケートによると、半数近くの学校が地域連携を行っていることが分かりました。例えば、「総合的な探究の時間」などで、地域の問題解決に取り組むことは、

「社会に開かれた教育課程」の1つの形と言えるでしょう。

しかし、現場の教師からは、地域連携における課題として、次のような声が上がっています。

現場の声① 「特定の教師に負担が集中している」

現場の声② 「一部の教師の取り組みであり、学校の取り組みとしての持続可能性が感じられない」

現場の声③ 「取り組みの意義を理解していない生徒、教師がいる」
現場の声④ 「負担が大きい割には、成果が見えにくい」

現場の声⑤ 「地域が生徒を『人手』と見てるように感じ、学びに結びつく活動になっていない」

どのような地域連携を目指せば、①～⑤のような声を生むこと

なく、取り組みを推進していいのか、そして、あるべき地域連携を実現するために必要な視点はどうなのかなのか。地域連携を先進的に実践してきた3校の先生方と考えていきたいと思えます。

先進的に地域連携を進める3校の実践から学ぶ

編集部 それでは、3校の先生方に、それぞれが実践している地域連携を簡単に紹介していただきます。

埼玉県立小川高校・篠田俊文 本校では、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」(地域魅力化型)の指定を受け、地域人材の協力を得ながら地域の

教育資源を活用し、探究的な学習に取り組む「おがわ学」を、「総合的な探究の時間」や各教科の授業等において展開しています。小・中学校、高校と、連続性を持った取り組みであり、専用ホームページを立ち上げ、ワークブックや授業動画も公開しています（*）。

埼玉県立小川高校



教頭
山田 健二
しのだ・としふみ
教職歴22年。同校に赴任して2年

◎学校概要
進学選抜クラスと普通クラスを設置し、それぞれの希望進路の実現を目指す。全国大会23年連続出場場の少林寺拳法部、全国大会常連のグローバルメディア研究部（放送部）を始め、部活動も盛ん。

設立 1925（大正14）年
形態 全日制・定時制／普通科／共学
生徒数 1学年約200人（全日制）
2021年度進路実績（現役のみ） 4年制大は、城西大、駿河台大、国士館大、大東文化大、拓殖大、東京国際大、東京電機大、東洋大、立教大、立正大などに延べ60人が合格。短大・専門学校進学94人。就職29人。

指定校である本校では、土木科、建築科、インテリア科の3科において、産学官協働により「災害対応型エンジニア」を育成する教育プログラムを開発しています。授業ではなかなか接する機会がない新技術、そして、企業や大学が取り組んでいる課題や、職業人や研究者が注いでいる情熱に生徒が触れられる場を目指しています。

熊本県立熊本工業高校



土木科科長
山田 健二
さるわたり・かずひろ
教職歴33年。同校に赴任して11年

◎学校概要
明朗真摯・創意工夫・友愛協調を教育綱領に掲げる。春・夏合わせて計43回の甲子園出場を誇る野球部など、全国大会への出場経験を持つ部が多い。

設立 1898（明治31）年
形態 全日制・定時制／機械科・電気科・電子科・工業化学科・繊維工業科・土木科・建築科・材料技術科・インテリア科・情報システム科／共学
生徒数 1学年約400人（全日制）
2021年度進路実績（現役のみ） 国公立大は、佐賀大、熊本大、大分大などに9人が合格。私立大は、専修大、東海大、東京農業大、関西大、福岡大などに延べ48人が合格。短大・専門学校進学48人。就職272人。

2021年度から「総合的な探究の時間」で、地域をフィールドにした探究学習を展開しています。1年次に探究学習の進め方などを学んだ上で、2年次に企業と連携し、社会問題の解決について探究します。地方公立高校の普通科では、少子化や学区制の撤廃などで生徒の多様化が進んでいます。生徒には、主体性を発揮し、学び続けるために必要な自己肯定感を育

宮崎県立都城西高校



フロンティア科主任
寺田 凛
ふくだ・えりい
教職歴12年。同校に赴任して7年

◎学校概要
校訓に、理想 (Ideal)、優雅 (Grace)、自主自律 (Independence) を掲げる。フロンティア科は、探究学習やハイレベルな授業を通じて、グローバルに活躍できる研究者・技術者の育成を目指している。

設立 1962（昭和37）年
形態 全日制／普通科・フロンティア科／共学
生徒数 1学年約240人
2021年度入試合格実績（現役のみ） 国公立大は、九州大、熊本大、宮崎大、鹿児島大、北九州市立大、宮崎県立看護大、宮崎公立大などに42人が合格。私立大は、専修大、東海大、久留米大、西南学院大、福岡大、南九州大などに延べ183人が合格。

むための1つのチャンスにしてほしいと考えています。

編集部 3校の取り組みの詳細な内容を次ページからの実践紹介でお伝えした上で、12ページからは、3校の取り組みも踏まえながら、地域連携はどうあるべきか、そして、現場の声①⑤のような課題をどのようにして乗り越えていけばよいのかについて、3校の先生方とともに考えていきます。

先進的に地域連携を実践してきた
3校の取り組みの詳細を、次ページから紹介

*「おがわ学」ホームページ <https://sites.google.com/center.spec.ed.jp/ogawagaku/>

実践紹介 1 埼玉県立小川高校

地域を「活かす」学びを 各教科の授業で展開し、 探究を深める

地域にかかわる多様な立場のメンバーで、カリキュラムを構築

埼玉県立小川高校は、2019年度、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の指定を受け、町内の小・中学校とともに、地域資源を活用した探究学習「おがわ学」をスタートさせた。事業指定初年度に、埼玉県教育委員会、小川町政策推進課、同町教育委員会、同町立小・中学校、高校（同校）、PTA、地域住民、産業・観光・文化団体の代表者、学校地域連携コーディネーターなどから成るコンソーシアムを組織し、「おがわ

学」で育成を目指す児童・生徒の姿を「自ら課題を発見し、深く考え、主体的に判断することができ、児童・生徒」などの3つに設定。その達成に向け、小学校は小川町について「知る」、中学校は「学ぶ」、高校は「活かす」と、発達段階に応じた内容とし、地域課題に取り組み上で必要な資質・能力を12年間で体系的に育成するカリキュラムとした。

同校では、校内の「おがわ学」の推進や校外の調整を担う「地域連携委員会」を立ち上げ、具体的な授業づくりは各教科会で検討を進めた。その際に議論になったのが、高校が担う「活かす」学び

図 「おがわ学」の主な授業

年次	教科	内容
1年次	現代社会	小川町の人口や産業、交通など、町の状況を把握し、町の行政について調べ、町に必要な施策を検討する。
	生物基礎	町の自然環境について様々な条件で調べ、外来生物（植物）の繁殖とも比較しながら、町の課題を探る。
	地理A・コミュニケーション英語I・情報	「地理A」で町について調べ、テーマ別マップを作成。「コミュニケーション英語I」で、観光名所を説明する英文を作り、「情報」でそれらを統合した英語版の観光案内地図を作成する。
2年次	世界史A・B	記録媒体の歴史を学ぶ単元で、地域の和紙作家から、ユネスコ無形文化遺産に登録された和紙について学ぶ。
	古典B	町内に点在する『万葉集』の歌碑を巡り、『万葉集注釈』と照合しながら、和歌の意味や背景を調べる。
3年次	家庭基礎	地域の有機農家から、地産地消や町で栽培される食材について学び、それらを使用した料理を通じて、食について考える。
	総合的な探究の時間	和紙や万葉集などの地域資源を生かした町づくりについて、テーマごとに12の講座に分かれ、グループでフィールドワークなどを行いながら探究を深めていく。

※学校資料を基に編集部で作成。

事前に授業の目的や展開を 地域人材と綿密に打ち合わせ

に向けて、生徒が地域課題を見つけ、具体的な取り組みを考えると、この授業をどのように展開するか、そして、地域人材がどのように生徒にかかわればよいかわからない。進路指導主事の谷野浩人先生は、次のように説明する。

「地域の自然や産業などを題材にした授業では、町外出身の生徒には得るものがないと思われるがちですが、目的は探究学習であり、町は題材の1つです。その点をまづは教師自身が理解し、地域人材にも伝えて、指導案を練りました」

事業指定2年目から、教科の授業や「総合的な探究の時間」、LHRで本格的に「おがわ学」を実施している（図）。授業に招く地域人材には、事前の打ち合わせで、自身の体験の中で生徒が関心を持ちそうな話題、生徒に考えさせたい題材に絞って話してもらいように依頼。生徒が授業後に取り組み振り返りシートを渡し、授業のゴールを共有する場合もある。



新井和弘
学校地域連携
コーディネーター
あらい・かずひろ
コーディネーター1年目



山野龍太郎
地域連携副委員長
やまの・りゅうたろう
教職歴10年。同校に赴任し
て3年目。国語科。



花輪恵
地域連携委員長
はなわ・めぐみ
教職歴25年。同校に赴任し
て5年目。地理歴史科。



谷野浩人
進路指導主事
やの・ひろと
教職歴30年。同校に赴任し
て7年目。英語科。



篠田俊文
教頭
しのだ・としふみ
教職歴22年。同校に赴任し
て2年目。



荻塚雄一
校長
にらづか・ゆういち
教職歴36年。同校に赴任し
て4年目。

さらに、生徒自身が題材について考え、気づきを得られる時間を確保するように授業を設計した。地域連携副委員長の山野龍太郎先生は、次のように語る。

「地域人材に授業の意図を説明した上で、授業で話す内容のレジュメを事前にいただき、その中で重点的に話してほしいことをすり合わせています。地域人材と打ち合わせた内容や授業の展開などは、指導案にして記録に残し、次年度以降、担当者が代わっても継続できるようにしています」

地域人材と学校との最初の調整は、学校地域連携コーディネーターが担う。21年度からコーディネーターを務める新井和弘さんは、前任者が地域を回って人材を発掘し、信頼関係を築いてきたことが重要だったと語る。

「地域の方の多くは、学校教育について詳しく知りません。直接会って『おがわ学』の趣旨を説明する際には、すぐに理解してもらうことを求めず、対話を重ねるようにはしています。また、子どもに教えた経験がないと不安を抱く方には、授業における地域人材の役割や子どもとの接し方などを伝える、不安なく授業に臨んでもらえるようにしています」

授業後には、生徒が書いた振り

返りシートを地域人材にも共有し、次の授業づくりに役立てている。

地域人材との交流から、自身のあり方・生き方を考える

生徒の学びは、自身のあり方・生き方にも影響を及ぼしている。例えば、2年生の「世界史」の授業で、地元の和紙作家と生徒が一緒に和紙の活用法を考えるワークショップを行った際、生徒が和紙作家に、「なぜ、和紙作家になったのか」と尋ねていたという。地域連携委員長の花輪恵先生は、地域の多様な人との交流がキャリア教育につながっていると語る。

「和紙作家と話し、和紙について深く知るうちに、それを職業に選んだ和紙作家の生き方に関心を持ったのでしよう。『おがわ学』は、生き方を考える探究学習にもなっています」

3年生の「総合的な探究の時間」では、同町の政策推進課から町の現状について説明を受け、問題解決のためのアイデアを出すグループワークを実施。その振り返り

シートには、町の数十年後を見据えて今すべきことを書いた生徒もいた。篠田俊文教頭は、「おがわ学」の1つの成果が見えたと言語。

「地域の問題に最前線で取り組む町の職員の話や、生徒は真剣に受け止め、解決策を考えていました。そうした体験の積み重ねが、社会に目を向け、よりよい社会を築こうとする志につながると実感しました」

事業指定終了後は学校地域連携コーディネーターの配置が難しいため、21年度は、同町の町づくりを行うNPOとの連携を通じて地域の人脈づくりに努めている。さらに、同町が運営する地域人材バンクに学校の教育資源を登録し、地域と学校が教育資源を活用し合える仕組みを検討中だ。荻塚雄一校長は、今後の展望をこう語る。

「学校には、専門知識を持つ教師や図書室、パソコン室など、様々な教育資源があります。生徒が地域から学ぶだけでなく、学校が地域の教育の場となることで、生徒と地域住民が高め合う、真の地域連携を目指していきます」

実践紹介 2

熊本県立熊本工業高校

地域の産学官が連携し、災害対応型エンジニアの育成プログラムを構築

高校から大学に連携を依頼
一から対話を重ねる

2018年度、文部科学省「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」（以下、SPH）の指定を受けた熊本県立熊本工業高校は、産学官で連携し、「災害対応型エンジニア」を育成する教育プログラムを構築している。土木科科長の猿渡和博先生は、同プログラムの背景を次のように説明する。

「2016年に起きた熊本地震での甚大な被害を受け、災害への備えを万全とするために、県内で災害復旧に貢献できる人材の育成が急務となりました。そこで、本

校では、災害対応で重要となる『インフラ』（土木科）、『建造物』（建築科）、『コミュニティ・アメニティ』（インテリア科）の3分野に重点を置いたプログラムを構築し、地域貢献を目指しました」

当時、同校の学校外とのかかわりは、就職セミナーなどを通じた企業連携のみで、大学や地域との連携は一からのスタートだった。

土木科では、猿渡先生が参加した防災イベントで知った、熊本地震からの復旧・復興に携わる熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センターに連携を依頼。快諾を得て、具体的な連携内容を決めていった。当初は、高校側が高大連

携のイメージを具体的に描けておらず、同センターの担当者から「何をしたいのですか」と問われて初めて、見通しがしつかりと立てられていないことに気づいたこともあった。その後、同センターと何度も検討を重ねた結果、予測できる災害に対して、自分自身が取る標準的な行動を時系列にまとめる「マイ・タイムライン」を軸とした予防的避難をテーマとすることが決まった（図）。

「プログラム開発の過程では、方向性が間違っていないか、考え方や手法が古いのではないかといった不安を持ちやすいですが、大学との対話を通じて、研究テ

マや進め方が適切であると確認でき、自信を持って事業を推進することができました」（猿渡先生）

企業とは、それまでの進路指導上のつながりを超え、ものづくりを軸にさらに連携を深めていった。建築科科長の本田喜樹先生は、生徒だけでなく、企業にとっても実のある連携になったと語る。

「本県の建設業界は人材不足で、企業には、若者に業界の魅力を知ってほしいという課題がありました。生徒にとっては、炭素繊維

図 連携先との関係性構築の過程

大学との関係

- 1 熊本地震からの復旧・復興にかかわっている熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センターに連携を依頼
- 2 大学⇒高校 地震被害に関する出前講座
大学⇄高校 南阿蘇断層被害の見学の企画及び同行説明
高校⇒大学 防災の考え方やソフト面に関するアドバイス（教師）、「マイ・タイムライン」の作成の研修（生徒）
- 3 相互の交流によって大学を身近に感じることができ、交流を続けることで持続可能な高大連携となった

地域との関係

- 1 県から益城町の支援を勧められた
- 2 益城町役場に相談
- 3 住民への説明会に参加し、事業の趣旨を説明。住民の理解を得る
- 4 座談会を重ねて住民との信頼関係を築き、ニーズを把握
- 5 ニーズに基づいたものづくりでコミュニティを強める



※学校資料を基に編集部で作成。



本田喜樹
建築科科长
ほんだ・よしき
教職歴10年。同校に赴任して6年目。工業科。



山本昌宏
インテリア科科长
やまもと・まさひろ
教職歴18年。同校に赴任して6年目。工業科。



猿渡和博
土木科科长
さるわたり・かずひろ
教職歴33年。同校に赴任して11年目。工業科。

を用いた補強技術や、建物の欠陥・劣化を調べる非破壊検査など、専門分野の最先端の知識や技術を学べるだけでなく、最前線で活躍する技術者から指導を受けることができ、職業観や使命感を肌で感じる機会になりました」

関係性構築のため、地域住民とのコミュニケーションも丁寧に行った。インテリア科では、熊本地震で甚大な被害を受けた益城町の木製キャビネット製作や花壇づくり、段差解消階段の施工などを計画。住民への説明会を設けて、活動の目的や内容を直接説明し、

相互理解に努めた。インテリア科長の山本昌宏先生は、こう語る。

「当初、住民の方たちは、私たちが何をしようとしているのか、イメージを持っていなかったと思います。私たちから居住ルールに関する質問などをして会話の糸口を探り、困っていることはないか、アンケートをして住民のニーズを把握し、それに基づいた支援を行っていききました。信頼関係を少しずつ築くことで、私たちの活動を理解していただけるようになりました」

取り組みの効果測定は、年度の始めと終わりに実施するアンケートや、活動ごとの事前・事後アンケート、そして、生徒が毎時間記述する振り返りシートの回答を基に行っている。活動ごとのアンケートのうち、技術面の評価は、専門家の見識が必要となるため、企業に評価項目の作成を依頼した。

効果測定で重視しているのは、振り返りシートだ。活動を通じて「学んだこと（知識・技術）」「見つけられた問題及びその解決方法（思考力・判断力・表現力等）」「感想・考察（学びに向かう力・人間

性等）」を記述させ、生徒の自己評価、教師の評価を記入する。

「定量評価で全体の成果を測るとともに、振り返りシートの自由記述から、生徒の考えや成長を見取り、育成を目指す資質・能力が身についたかどうかをつかんでいます」（猿渡先生）

将来の職業で重視するのは給料より「働きがい」

SPHでの成果の1つは、3年間で外部機関と信頼関係を構築したことで、指定終了後も取り組みを継続できていることだ。

「大学や企業、地域との連携によって、授業で学習したことを実践できる場ができ、生徒の学びの幅が飛躍的に広がりました。連携先に引率する教師が、現場で得た知見を授業や実習に生かせるようになるなど、授業改善にもつながっています」（山本先生）

インターンシップの受け入れ先が増えたり、生徒が就職活動に前向きに取り組んだり、進路面にも好影響が表れている。

SPHでの活動が評価され、建設やインテリアなどの各協会から協力を得られるようになった。謝礼や材料費などの経費を負担してくれたり、各企業との交渉窓口を引き受けてくれたりと、指定終了後の連携継続の大きな力になっている。

生徒の変容も著しい。年度の始めと終わりに生徒に行うアンケートの結果を見ると、企業連携による実習を取り入れた2年次から、知識・技術の習得、自助・公助の意識、課題発見、解決行動など、各評価項目の数値が上がり、生徒の変容が見られた。また、20年度末、生徒に「就職で何を重視するか」を聞いたところ、最も多かった項目は、1年生は「給料」に対し、3年間様々な活動に取り組んできた3年生は「働きがい」だった。

「企業や行政の人たちから、『夜を徹して復旧作業を進めた』『住民の生活を取り戻すために、採算を度外視して取り組んだ』といった地域への熱い思いを聞き、生徒の心に地域貢献の思いが生まれたのだと思います」（山本先生）



福田映李
フロンティア科主任
ふくだ・えりい
教職歴12年。同校に赴任して7年目。理科(生物)。



後藤宏隆
進路指導主事
ごとう・ひろたか
教職歴25年。同校に赴任して6年目。地理歴史・公民科。

の説明を受け、2年次に取り組みたい探究テーマをイメージする。2年次は、1企業につき3〜6人の生徒から成るグループが、協力企業が抱える課題を踏まえ、探究テーマを企業担当者とともに設定し、1年間を通して探究する。企業担当者はメンターとして、研究計画発表・中間発表・成果発表時に同校を訪問し、生徒に直接助言・指導する。加えて、メールやSNSでやり取りする仕組みも整え、生徒が企業担当者に日常的に進捗を伝え、相談できるようにしている。グループによっては、企業の事業所を訪問したり、施設見学をしたりするなど、企業担当者とのコミュニケーションを深めながら、主体的に課題に取り組んでいる。同校は、それらの活動がしやす

くなるよう、校外活動に必要な手続きを簡素化した。

「当初は、教師が同行しない、生徒だけで行う校外活動に不安がありました。担当教師に進捗報告を週1回するというルールを設け、思い切って生徒に企業担当者とのやり取りを任せました。すると生徒は、企業担当者に送るメールに、『お忙しいところ申し訳ございません』と書き添えるなど、自分で考えて行動する姿が見られました。生徒を信じてチャレンジさせる大切さを改めて実感しました」(福田先生)

企業と直接やり取りをする中で、生徒は企業担当者から指摘を受けて活動計画を作り直したり、中間発表では、進捗報告が不十分だったグループが、同支部代表から、「報告・連絡・相談は社会人の義務だから、徹底するように」といった指導を受けたりした。「生徒と企業担当者とのやり取りを見守る中で、教師は生徒が失敗しないで学びを完結できるように導いてしまいがちだと、改めて認識しました。地域に深く入り込

み、地域の大人から、教師とは異なる視点で指導や支援を受けながら、答えが1つではない地域の課題に試行錯誤して取り組む中で、生徒には自ら考え、行動するといった成長が見られています」(福田先生)

企業が連携のメリットを実感することが、継続の鍵

「食品トレーのリサイクル」「外国人が住みやすいまちづくり」など、自分たちで設定した課題を探究する中で、視野を広げたり、新たな気づきを得たりする姿から、教師は生徒の成長に手応えを感じ始めている。進路指導主事の後藤宏隆先生は、次のように話す。

「学校では文系と理系に分かれて学びますが、社会の問題はそう明確に分類されるものではなく、多様な領域からのアプローチがあって初めて解決に至ります。探究学習だけで企業が抱える問題を解決することは難しいですが、それでも、『どうすれば解決に近づけるのか』『自分には何ができるの

か』などと生徒が考えることは、必ずや今後の成長につながると捉えています」

生徒からは、「地域に興味を持った」「この地域で働きたいと思った」「将来の夢が決まった」といった声が上がっており、探究学習を通じて地域への関心が高まっていることがうかがえる。

地元企業が生徒の探究学習に積極的にかかわろうとするのは、学校との連携に企業も多くのメリットを感じているからだ。後藤先生は指摘する。

「学校は、生徒に資質・能力が育成されているかを探究学習の成果として最も重要視しており、その点を企業とも共有しています。ただ、企業は、生徒とのコミュニケーションそのものが企業イメージの向上につながったり、若い世代のニーズをつかむことで商品開発に役立つ発見があったりすることに意義を感じているようです。学校と企業の双方にメリットのある関係が、連携を継続させるためには大切であると考えています」

見解提示

活動の目的や生徒の変容を、 かかわるすべての人と共有し、 連携上の課題を乗り越える

地域連携を進める上での 配慮や工夫

編集部 ここからは、3校の取り組み（P.6〜11）も踏まえながら、地域連携のあり方について考えていきます。3校とも地域と連携した探究学習に取り組んでいます。が、地域連携を進める上で、どのようなことに留意していますか。

福田 本校が実施する地元企業と協働した探究プログラム（P.10〜11）では、協力企業と生徒が話し合っ、探究する課題を決めます。地域についての理解の度合いや、地元企業を取り巻く社会環境などに関する知識の量は、生徒に

よってまちまちですし、協力企業の担当者の多くは、高校生との探究学習を初めて経験します。そのため、高校生と社会人が協働して、探究する課題を設定するのは簡単なことではありません。そこで本校では、探究する課題が設定しやすくなるように、「地元企業が取り組むべき、SDGsに関する課題」を、探究する課題の大枠として提示し、話し合いを始めるようにしています。

猿渡 本校の、産学官で連携し、「災害対応型エンジニア」を育成する教育プログラム（P.8〜9）での研究テーマは、例えば、連携先が扱っている「ドローン」など

の新技术の利活用といった大きなテーマを教師が設定した上で、その枠の中で生徒に具体的に設定させるような場合もあれば、最初から生徒と連携先が話し合っ、決めていく場合もあります。そのように、研究テーマの設定の仕方様々ですが、高校ではなかなか接



埼玉県立小川高校
篠田俊文

熊本県立熊本工業高校
猿渡和博

宮城県立都城西高校 福田映李

※3人の先生の
プロフィールはP.5

点が持てない新しい技術に触れさせること、そして、解決が求められている地域の問題をリアルに感じること、その2点を連携の目的として明確に示し、生徒、連携先、教師の3者が共通認識を持った上で研究テーマを設定します。

篠田 本校が地域と取り組む「おがわ学」（P.6〜7）は、小・中学校で取り組んだ地域に関する学習を発展させ、生徒のあり方・生き方と関連づけていくものであるため、生徒は地域の魅力や課題をある程度理解した上で、地域資源を題材とした探究的な学習などに取り組みます。取り組みを推進する上で気をつけているのは、地域と生徒の協働が始まる前に、教師が地域に対して、「この部分を特にしっかりと伝えてください」「これは具体例を交えて平易な言葉で説明していただけますか」などと、生徒を知る立場として具体的に依頼することです。

猿渡 外部の方と教師との事前のコミュニケーションは、地域連携をよりよく進めていく上で重要ですね。本校でも、事前に企業や大

学に対して、生徒に身につけさせたい知識や理解させたい観点とあった、活動のねらいをお伝えすることを大切にしています。

福田 探究プログラムの開始に先立って私は、協力企業を束ねる経済団体の定例会に参加しました。そこで地元企業がSDGsなどの勉強会を積極的に行っていることが分かり、企業と高校生が協働できることを確信しました。その上で、本校が育成を目指す生徒像と地域との連携で目指すことを「探究活動方針」として協力企業に提示し、理解を求めました(図1)。

編集部 3校に共通するのは、地域連携の目的を連携先としっかり共有していることですね。

猿渡 忙しい中で協力してくれる企業や大学への感謝の気持ちを持つことが、窓口となる教師はもちろん、地域連携にかかわるすべての教師に求められます。最前線の仕事や研究を生徒に教えてくれる連携先の方々への謝意を、折に触れてすべての教師が言葉で表すとともに、これからの時代を生きる生徒にどのような経験や知識が必

要なのかを、その都度、連携先に説明することで、連携先の方々から「生徒に伝えたい」といった気持ちを引き出すことができると思います。そのためにも、連携の目的を校内の教師ともしっかりと共有することが不可欠です。

編集部 連携のスタート時はもちろん、連携が始まってからも、学校と地域が密接なコミュニケーションを図り、地域連携の目的を共有することで、地域が高校生を「人手」として見ることなく、高校生に必要な学びに結びつく活動になりそうです。

福田 本校の地域連携の窓口を務める経済団体の担当者は、「都城西高校との連携は、生徒のためだけではなく、自分たちのためでもある」と言っています。若い世代の考えを知ることにより魅力的な企業になること、そして、高校生の学びに寄り添う経験を自社の社員の育成へと結びつけていくことも、大きなねらいとのことですが、必ずしも学校と地域のねらいは一致するとは限りませんが、互いのねらいを理解し合うことが、連

図1 都城西高校が協力企業に示した「探究活動方針」



都城西高校は、地元企業と連携した探究学習の開始に際し、企業に協力してほしい活動内容だけでなく、探究学習のそもそもの目的を丁寧に説明した。＊学校資料をそのまま掲載。

携の推進には必要なのだと思います。また、連携当初に行う目的共有はもちろん、連携中の緊密なコミュニケーションも重要です。例えば、「生徒の探究が進まない時は、こんな言葉をかけてください」

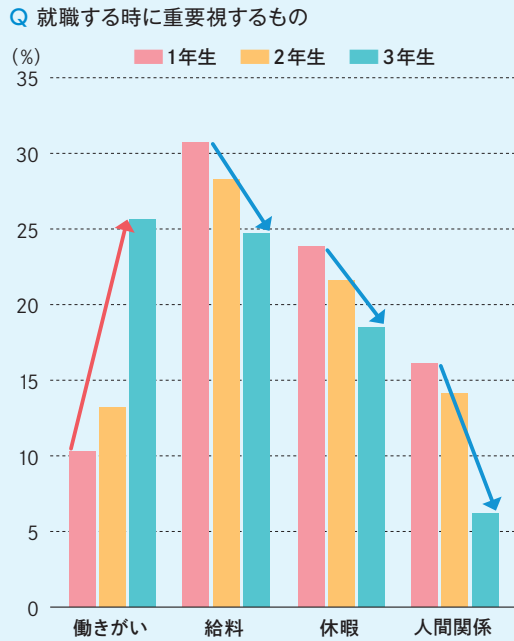
などとお願いをしますが、そうした依頼は文書ではなく、できるだけ直接お伝えするようにしています。そして、大勢の教師がかかわる取り組みなので、校内での「報告・連絡・相談」は重要ですが、連携先との折衝については、窓口の教師にある程度一任すること

で、先生方の負担軽減につながります。

**多面的な方法で
連携の成果を見る**

編集部 地域連携に取り組む学校の中には、「活動の成果が見えにくい」「一部の熱心な教師の取り組みにとどまっている」といった課題を抱える学校もあります。3校では、取り組みの成果をどのようにして可視化し、共有していま

図2 熊本工業高校 生徒への職業観アンケート



土木科1～3年生を対象に、2020年11月に実施したアンケート結果。3年間の企業連携で、職業観や価値観に予想外の変容が見られた。 ※学校資料を基に編集部で作成。

猿渡 現場の技術者と触れ合う中で生徒が身につけた資質・能力や生徒に表れた変化を、アンケート調査を通じて測定・評価し、校内で共有するようにしています。例えば、1～3年生に職業を選ぶ際に重視する要素を聞くと、1年生は「給料」「休暇」が多かったのですが、産学官連携を経験した3年生は「働きがい」が最も多くなりました(図2)。現場の技術者や大学の研究者と接する中で、生徒の価値観に変化が起こったでしょう。そうした活動の成果を校

内で共有し、全教師で技術者を育てる喜びを味わうことが、活動全校内全体に広がっていくことにつながると思っています。
篠田 本校では、2021年度、「目指す学校像」に「おがわ学」の文脈を取り入れ、「地域に根差した進学校として、社会に開かれた教育活動を展開する中で、自立した学習者を育成し、地域や社会に貢献する学校を目指す」と刷新しました。その「目指す学校像」の実現に向けて、各教科・分掌等が授業や指導を改善していける

ようにするためにも、「おがわ学」の成果を検証・可視化し、各教科・分掌等と共有することが重要です。そこで、国立教育政策研究所が公開する事例などを基に、保護者を含む地域を対象とした、質問紙による大規模調査の実施を検討するなど、多面的な評価の充実を進めています(図3)。ただ、忘れてはならないことは、地域連携の成果はすぐに表れるものばかりではなく、「種まき」の要素もあるということです。本校での一例ですが、有機農業や和紙などの地域の専門家を招き、座談会を開いたことがありました。その座談会に参加したある生徒が、その時点では希望進路と専門家の話との関係性について意識はしていませんでしたが、時間とともに自分の進路と有機農業の密接な関係に気づいていきました。そして、『あの時、もっと話を聞いておけばよかった』という思いが強くなり、教師に相談した上で、改めて話を聞くために有機農業の専門家を訪ねたのです。そうした「種まき」とも

定 言えるケースがあるからこそ、**定** **編集部** 学校は、連携のねらいを地域に伝え、地域の思いにも耳を傾ける。そして、両者にとって実

**地域連携の価値を
高校が社会に発信する**

量的な視点だけでなく、定性的にも生徒の変容を見取ることが必要なのです。

図3 小川高校における地域連携の成果検証

- 1 評価ツールの活用**
 - 民間シンクタンクの評価システムを活用
 - 「おがわ学」の特色に応じた評価項目や評価方法について検証
- 2 資質・能力の3つの柱の育成に係る質問紙調査の実施**
 - 地域の問題解決に向けた探究学習が、生徒の知識・技能、思考力・判断力・表現力等に加え、学習意欲やコミュニケーション能力等の育成にどのように影響するのかなどについて検証
- 3 関係者に対する聞き取り調査**
 - 町の行政・社会教育担当者、保護者、住民等に対する聞き取り調査を行い、成果と課題を明らかにする

※学校資料を基に編集部で作成。



Column

気になる実務のあれこれ

① 連携先はどうやって探す？

地域連携において学校が直面する課題の1つが、連携先の探し方だ。都城西高校は、地域の経済団体を窓口として、連携先を探す負担を減らしている。熊本工業高校は、連携にかかわる3学科の教師が企業や大学を訪ね、高校との連携を打診している。

中国地方の公立A高校は、地元の経済団体からの紹介に加えて、保護者から連携にふさわしい企業を紹介してもらっている。A高校は、理数教育の充実を目的とした連携を行っているが、地方都市では研究・開発に携わる企業が限られているため、様々なルートで連携先を探しているようだ。また、九州の公立B高校では、生徒が、連携したい企業や団体を自ら探す。そして、学校が作成した電話対応マニュアルなどを見ながら、職員室など、教師の目の届く場所で、訪問の appointments を取るとのことだ。

② 校外活動の費用負担は？

連携先との打ち合わせや校外で実施される体験の場への参加、さらには講師への謝金など、地域連携には費用も必要だ。文部科学省の事業の指定を受けていたり、民間企業の関連財団の助成事業に採用されていたりする学校であれば、連携に関する費用はその予算を充てることもできる。では、そうした指定や採用のない学校は、必要な費用をどのように準備しているのだろうか。

前述のA高校は、企業や大学を訪問する際の生徒・教師の交通費、実験や調査の諸経費（5万円程度）については、理数教育の充実を目的とした県の複数の支援を利用しているため、生徒からの実費の徴収は行っていない。一方、前述のB高校は、活動に必要な主な費用である市内移動の交通費は、生徒の自己負担としている。数年前、他県の自治体の視察を行ったグループがあったが、生徒自身が保護者に説明し、理解を得て、費用を出してもらったとのことだ。

証することで、**取り組みの持続可能性が高まり**そうです。
猿渡 学校と連携先のそれぞれのねらいを確認することで、生徒の変化・変容を定性的に見取るための取り組みの事前・事後アンケートを練り上げることができると思っています。本校の場合は、「災害対応型エンジニア」としての意識変容と、研究テーマに関連する事象についての知識理解という2つの

異なる視点で生徒を評価し、活動を総括しています。そして、教師が作成したルーブリックで見取ることができる範囲だけでなく、私たちの想定を超える生徒の変化・変容をつかむためには、生徒や連携先の声を集めることが欠かせないと思いますし、そうした**定性評価**としての**生徒の声を踏まえて、さらにルーブリックを改善していくことが必要**だと思います。

編集部 活動や連携の目的を明確化し、それらを連携先や校内の教師と共有した上で、**取り組みの成果を検証し、次につなげる**——そうしたPDCAサイクルを回すことで、**様々な課題を乗り越えることができる**と、先生方のお話を伺って実感しました。
福田 実りある連携のあり方を模索する中で、教師は、**社会に開かれた教育課程**についての理解を

もっと深めるべきだと思います。そして、地域連携を担当していない教師にも、**生徒の活動を見えやすくするために、ポर्टフォリオなどを活用して、教師間で生徒の変容を見取る機会をつくって**いきたいです。そうした場合は、PDCAサイクルのCの充実にもつながると思います。

篠田 生徒の未来に目を向けた評価も充実させていきたいです。高校時代に授業内外の学習で豊かな人間関係を築くことは、大学入学後の学習、さらには社会に出た時の仕事や人生に影響を及ぼすはずです。**地域連携を通して真真正正な学びを経験した生徒が社会に出た時にどのような行動を取っているのかを検証した上で、地域社会に対する展望を生徒に描かせることの重要性を広く社会に発信すること**は、これからの高校が担う新たな役割かもしれません。

編集部 生徒、そして地域にとって確かな成果のある地域連携を、持続可能な形で推進していくための多くのヒントをいただきました。ありがとうございます。

本特集テーマのnext

学校と地域をつなぎ、

双方の課題に協働して取り組む

「コーディネーター」

社会に開かれた教育課程の実現が求められる中、学校と地域を理解し、橋渡しを行う「コーディネーター」の存在に注目が集まっている。岩手県立大槌高校にコーディネーターとして常駐し、地域課題や地域人材と学校をつなぐ認定NPO法人カタリバ職員の菅野祐太さんに話を聞いた。

学校と地域をつなぎ、

「真正な学び」をつくる

岩手県立大槌高校には、私を含めて3人のコーディネーターが学校に常駐しています。それぞれ職員室に机があり、今年度は私は3学年団の所属です。大槌町と高校が連携し、復興の担い手を育てる教育を行うためには、地域と学校の両方の視点を持った人材が学校に常駐することが重要であるという認識の下、コーディネーターが

配置されています。

大槌高校でのコーディネーターの仕事(図1)は、学校と地域をつなぐことです。教師や生徒を地域の人々とつなぎ、教育活動と地域課題をつなぎます。「総合的な探究の時間」や地域に開かれた学校設定科目の設計、学習評価の際に用いられるルーブリックの作成にも携わります。また、教師や生徒が町民と学校の魅力化について語り合える場を設けたり、町と学校が未来の高校のあり方を協議す

図1 大槌高校における
コーディネーターの主な仕事

カリキュラムの開発

「総合的な探究の時間」における「三陸みらい探究」や、学校設定科目として設けている教科の探究学習のカリキュラム開発。

探究学習の指導

前述の「三陸みらい探究」や学校設定科目で、特に生徒が放課後に活動する際の指導や支援。

学校と地域のコーディネート

探究学習や学校設定科目に取り組む上で必要となる、学校と地域の企業や人材との橋渡し。学校と地域間の情報共有。

特別選抜の出願書類の作成指導

探究学習などでの生徒の活動内容や、そこで育まれた資質・能力を知る立場として、志望理由書や活動報告書の作成を支援。

コンソーシアム体制(構想会議)の構築

教育に必要なリソースの拡充、教育課程のあり方などについて、大槌高校や地元の中学校、行政、民間企業、保護者などが集まり、検討する構想会議の運営。また、高校魅力化構想(骨子)の策定など。

※菅野さんへの取材を基に編集部で作成。

る場を設定したりしています。

地域と連携した学びの魅力は、生徒が、学校で学んだことを生きて働くものとして発揮できる「真正な学び」を体験できることです。しかし、学校と地域がそれぞれ取り組みたいことは、最初から合致しているとは限りません。そこで、学校と地域の双方の事情を知るコーディネーターがそれぞれの真意をくみ取り、互いを受け入れられるように橋渡しをします。

例えば、「総合的な探究の時間」に取り組む中で、ある生徒が、若者の居場所となるカフェのような場所をつくりたいと考え、応援してくれる大人を探していました。

ちょうど同時期に、地域の方から、「子ども食堂を始めたけど、思ったように人が集まらない」という声を聞いていました。そこで、生徒と地域の方をつなげられないかと考え、生徒に、「こんな活動をしている地域の人がいるよ」と紹介し、活動を見に行くことを勧めました。生徒たちは話し合い、子ども食堂に手伝いに行くことを決めました。さらに、地域の方に、「生徒が来たら、大人たちが何に困っているのかを生徒に話してみてください」とお願いしました。子ども食堂の目的と直面している問題を知った生徒は、校内で子ども食堂の存在をPRしました。その結果、



認定NPO法人カタリバ職員
大槌町教育委員会教育専門官
菅野 祐太 かのの・ゆうた

大学卒業後、民間企業に就職。東日本大震災発生後、休職し、被災地となった岩手県大槌町に居住。行政や学校と連携して、中学生・高校生の放課後の学習場所であるコラボ・スクール「大槌臨学舎」を立ち上げる。その後、カタリバに入職し、大槌臨学舎の統括担当として勤務。2017年4月より、NPOから行政に出向する形で大槌町教育専門官として、地域と協働した高校教育改革に携わる。19年4月より岩手県立大槌高校カリキュラム開発等専門家として同校に常駐。文部科学省「コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会議」委員。内閣官房長官主催「こども政策の推進に係る有識者会議」臨時構成員。

利用者数は一気に増えました。また、高校生の利用も増えたことで、当初生徒たちが考えていた「若者の居場所づくり」も実現しつつあります。

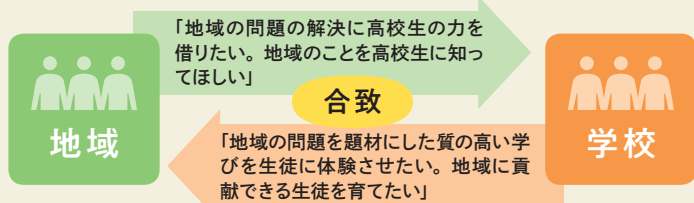
そのように、学校と地域の課題をつなげ、協働して取り組む方策を模索するために、コーディネーター

図2 学校と地域の思いをつなぐコーディネーター

◎学校と地域がそれぞれの思いをぶつけると……



◎相手の立場を理解しながら思いを伝えと……



コーディネーターが両者の思いを伝わりやすく言語化

菅野さんが考える「教師がコーディネーターと協働する際のポイント」

- ・ コーディネーターと、生徒の成長について共有し、生まれた成果を楽しむ。
- ・ 教師も、地域に対して興味を持つ。例えば、地域の人たちが学校を訪れた際には、教師が積極的に地域の人たちに声をかけ、その話に耳を傾ける。
- ・ コーディネーターは、教師とは異なる視点の持ち主である。生徒の想定外の成長を期待し、コーディネーターに任せられる部分は任せる。
- ・ P D C A サイクルの「P (プラン)」に時間をかけすぎずに新しい取り組みに挑み、振り返りはコーディネーターと丁寧に行うことで、次の取り組みに生かしていく。

※菅野さんへの取材を基に編集部で作成。

学校と地域の思いが
つながることが重要

コーディネーターは、学校と地域の双方の思いを受け止めて、行動します(図2)。学校の思いだけで行動してもうまくいきません。例えば、地域から「町の行事

に、高校生に参加してもらいたい」と相談を受けたとします。地域は高校生を人手として期待しているわけです。しかし、その要望をそのまま学校に伝えても、「それは生徒のためになるのか?」と受け入れてもらえないでしょう。

地域の要望を学校に受け入れてもらうためには、学びの文脈が必要で、町の行事の課題や生徒が

コーディネーターと出会い、
その存在を生かすために

地域との連携を進めるために、コーディネーターの配置を考えている学校も多いと思います。そうした人材を探している学校はま

担う役割を理解し、どのようなかわりをすれば、どんな資質・能力の育成の機会となるのかを先生方に伝えなければなりません。そのため、コーディネーターには、教育に関する豊かな知見が必要です。

一方、コーディネーターと協働する先生方には、地域の実情や課題、地域が持つ資源、そして地域住民の願いを理解することが求められます。例えば、探究学習において、生徒が自身の興味・関心だけで設定した課題では、地域の協力を得るのは難しいこともあります。生徒の設定した課題が地域の課題と密接に関連していれば、地域の方の意識は変わります。探究学習であれば、地域が学校にかかわりたくなるテーマにするなどの工夫をするとよいでしょう。

ず、地元自治体の「企画財政課」「総合政策課」などの部署に相談してみるところよいと思います。ただ、その際、「教員免許取得者がよい」「高校生とかかわった経験も必要」などと、多くの条件を出すと、具体的な名前はなかなか挙がってこないでしょう。私は、コーディネーターに最も求められるのは、生徒や先生方と一緒に学んでいく姿勢だと思っています。ですから、教員免許がなくても、社会教育に携わった経験のある方などから適切な人材が見つかるかもしれません。コーディネーターの候補が見つかったら、学校に招いて地域について生徒と話し合ってもらい、その様子を見て、適切な人材かどうかを判断するとよいと思います。

実際にコーディネーターを配置しても、資料の作成や地域との事務的なやりとりしか任せることができている学校もあると聞きます。現場の先生方の業務負担が軽減されているのであればそれでもよいのかもしれませんが、せっかくコーディネーターという先生方とは異なる視点を持った存在を迎

え入れたのですから、地域との連携のあり方や、それを授業に生かす方法などについて、コーディネーターに積極的に意見を聞いていただきたいと思っています。そのためには、先生方とコーディネーターの相互理解が欠かせませんし、それは両者が机を並べ、生徒と接する中で感じた喜びや楽しさを日々語り合う中で深まるのだと考えます。

また、コーディネーターを迎えた学校の管理職の先生には、コーディネーターにどんな役割を求め、コーディネーターとともにどんな学校を目指すのか、先生方に発信していただきたいと思っています。そうした写真があつてこそ、先生方はコーディネーターと積極的にいかかわることができそうです。さらに、管理職の先生は、現場の先生とコーディネーターの連携がうまくいった時は、双方をほめてあげてほしいと思います。そうすることで、コーディネーターという新しい役割が、先生や生徒とともに学びをつくる存在として、学校に根を下ろしていくはずですよ。

イベントのご案内

VIEWnext PRESENTS

2022年
2月4日(金)
オンラインで
開催!

本誌特集テーマとも連動!

自校の研修・会議に使える! 対話促進スキル向上・オンライン講座

— 学校と地域をつなぐコーディネーターが語る — 両者の連携を深める対話のあり方



講師

認定NPO法人カタリバ職員
大槌町教育委員会教育専門官
菅野祐太

◎東日本大震災後、岩手県大槌町に、中高生のための「大槌臨学舎」を設立。カタリバに入職し、大槌臨学舎の統括担当として勤務。

VIEW next 編集部は今年度、対話型の研修や会議を実現するために必要な対話促進スキルの向上を目的としたオンライン講座を、特集のテーマと連動させる形で開催しています。今回は、認定NPO法人カタリバ職員で、学校と地域をつなぐコーディネーターである菅野祐太氏に、地域連携を推進する中で行われる地域との対話において、学校側が連携先に伝えるべきことや、対話上留意すべき点についてお話しいただきます。

開催日時 2022年2月4日(金) 16時00分～17時10分

形式 オンライン(ライブ配信) ※お申し込みいただいた方に、詳しい参加方法をご案内します。

参加申し込み方法 右の2次元コード、または下記URLから登録してください。

<https://enquete.benesse.ne.jp/forms/o/wef9859676/form.php>

参加申し込み締め切り 2022年1月28日(金) 参加費 無料



For School Section

学校改革や組織運営に役立つ
事例や情報を、
先生方の思いを乗せてお届けする

P.20

新課程に向けて描く 「学校教育デザイン」

新課程で求められるカリキュラム・マネジメントの
視点での学校づくりとは？

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

進路担当

大阪府立農芸高校

「育てたい人物像」を全学科で共有した上で、
評価・検証の仕組みまでを整える

P.24

— 疑問や課題を解決！実践につながる！— 新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

新課程初年度に向けた自校の計画・実践に
つながる事例や解説記事を提供

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

新課程1期生入学に向けた 「情報I」の準備

ウェブセミナー 新課程1期生入学に向けた学びの設計と実践 第6回
先進校の実践から「情報I」の授業を考える

P.28

指導変革の軌跡

その時、教師は何を考え、どう動いたか。
学校改革の過程を当事者の言葉で追う

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

進路担当

青森県・私立東奥義塾高校^{とうおう}

客観的な学力指標による進路指導

「行きたい大学」を目指す生徒を育て、指定校制選抜においても、
志望校に求められる学力を身につけさせる

P.32

輝く 学年団

を訪ねて

学年経営に悩む先生方に！
チームづくりの秘訣を掘り下げる

お勧めの分掌 ▶

学年団

担任

福岡県立朝倉高校 1学年団

自律的学習者の育成に向けて、
具体的な目標を設定し、生徒の日常に伴走する

P.36

学校 危機管理 基礎講座

お勧めの分掌 ▶

管理職

いざという時の対応は平時の準備で決まる。学校危機管理の専門家が解説

教師・生徒の健康管理

新課程に向けて描く

「学校教育デザイン」

「育てたい人物像」を全学科で共有した上で、 評価・検証の仕組みまでを整える

大阪府立農芸高校

アウトライン

科目単位で育成を目指す資質・能力を設定



地域創生に貢献できる
ジェネラリストの育成を目指す

2018年度、文部科学省「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」（以下、SPH）の指定を受けた大阪府立農芸高校は、SPH委員会を立ち上げ、グランドデザインの策定に着手した。育てたい人物像を「チャレンジ精神豊かな地域創生ジェネラリスト」としたその思いを、喜多英一校長は次のように語る。

「本校は、生徒が地域の小学校で食育の出張授業を行ったり、地域の企業と協働で商品開発に取り組んだり、地域とのかかわりが深い学校です。地域の課題に取り

組むためには、専門的な知識や技術に加えて、幅広い視野も必要です。そこで、その2つの要素を合わせた『地域創生ジェネラリスト』の育成を目標に掲げました」

同委員会は、新学習指導要領が示す資質・能力の3つの柱を踏まえ、自校が育成を目指す資質・能力の枠組みを「スキル」「ビュー」「マインド」の3つと捉え、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」

（*）を参考に、13の資質・能力を策定（図1）。それらの中から各教科・科目で育成を目指す資質・能力を各教科会で設定し、一覧表にした（図2）。同委員会の責任者を務めた鳥谷直宏先生は、各教科会の様子をこう振り返る。

「私が参加したどの教科会も、

『この資質・能力はあの教科で育める。私たちの教科で育むべき資質・能力はこれだ』などと、他教科の視点も踏まえた意見が交わされていました。教科会での議論は、育てたい人物像の実現に向けて、担当教科が果たすべき役割を俯瞰的に捉える機会となりました」

**目標に設定した資質・能力の
育成を目指す授業づくりが進む**

各教科・科目が設定した育成を目指す資質・能力には、「主体性」が多く挙げられていた。

「私たちは、それを本校の特色と捉えました。本校では、専門分

* 職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を定義したもの。「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力と12の能力要素から構成される。

SCHOOL PROFILE

設立 1917 (大正6) 年
形態 全日制/ハイテク農芸科、食品加工科、資源動物科/共学
生徒数 1学年約 200 人



2021年度進路実績 (現役のみ)

国公立大は、帯広畜産大、宇都宮大、岐阜大、京都教育大、鳥取大、高知大、鳥取環境大に8人が合格。私立大は、東京農業大、京都産業大、龍谷大、近畿大などに延べ 34人が合格。短大・専門学校進学 69人。農業大学校進学 12人。就職 43人。

図1 「育てたい人物像」と「育成を目指す資質・能力」

育てたい人物像	育てたい3つの力	関連性のある資質・能力	育成を目指す資質・能力3つの柱
地域創生 チャレンジ精神豊かな チャレンジャー ジェネラリスト	高度な知識・ 専門技術 【スキル】	①高度な知識	知識・技能 何を理解しているか 何ができるか
		②専門技術	
		③課題発見力	
		④課題解決力 (行動力)	
		⑤課題解決力 (実行力)	
	環境及び グローバルな 視座 【ビュー】	⑥社会貢献度 (規範意識)	思考力・判断力・ 表現力等 理解していること、 できることをどう使うか
		⑦郷土愛 (使命感)	
		⑧国際意識 (多様性)	
		⑨創造力	
	チャレンジ 精神 【マインド】	⑩主体性	学びに向かう力 人間性 どのように社会・世界と かかわり、 よりよい人生を送るか
		⑪豊かな人間性	
		⑫キャリアプランニング	
		⑬チャレンジ精神	

※学校資料を基に編集部で作成。

図2 「2021年度 教育課程と関連性のある資質・能力の対応一覧」(抜粋)

関連性のある資質・能力		①高度な知識	②専門技術	③課題発見力
達成値 (教育課程で担保する力→各科目で実施)		学習した専門分野の新たな知識を理解している	学習した専門分野の知識を活用する技術が身につけている	学習した専門分野の課題が何かを理解している
共通教科	1年 国語総合	○		
	1年 現代社会	○		
	1年 数学 I			
	1年 生物基礎			
	1年 体育			
	1年 保健			
	1年 音楽 I			
	1年 コミュニケーション英語 I		○	
	2・3年 現代文 B	○		
	2年 日本史 A	○		

全教科・科目と特別活動で育成を目指す資質・能力を設定し、一覧表にした。

※学校資料を基に編集部で作成。上図の全体像は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME→教育情報→高校向け」をご覧ください。

野の異なる複数の教師の下、生徒が少人数の班で取り組む『課題研究』を中核科目に位置づけていきます。同科目の活動をより深いものとするための鍵となる、生徒が自らテーマを設定し、自分で取り組む『主体性』を、教科学習では特に育成するという共通認識を、一連の検討を通じて教師間で図ることができました」(鳥谷先生)

各教科・科目の授業は、目標として設定した資質・能力の育成を意識したものへと変化している。育成を目指す資質・能力を「高度な知識」「創造力」「主体性」とした「現代文B」では、夏目漱石の『こころ』の単元で新たな活動を行った。まず、生徒が素材文の読解を段落ごとに分担し、教師が示したポイントを踏まえて各自で読

解。次に各段落の要約を生徒同士で説明し合うことで、素材文全体の読解につなげた。授業を行った井上佳奈先生は、こう語る。「生徒は『課題研究』などで大勢の人の前で自分の意見を発表します。国語でも、発表を通じて創造力や主体性を発揮できる場を設けようと、この活動を考えました。生徒は担当の段落を丁寧に読み込

図3 生徒に実施したアンケート項目（抜粋）

生徒は、以下のような項目について、4段階で自己評価。

- ・国語の授業を通して、得た知識を活用し、文章などを用いて、自分の考えや意見を表現する力が身についた。【創造力】
- ・英語の授業を通して、世界の中の日本を知り、他国との文化の違いを知ることによって、日本を今まで以上に知ることができた。【国際意識】
- ・理科の授業を通して、新たな課題に取り組んで、何かにチャレンジしようと思えるようになった。【チャレンジ精神】
- ・数学の授業を通して、説得力をもって主張し、議論できるようになった。【課題解決力】

※学校資料を基に編集部で作成。

ポर्टフォリオで生徒の変容を丁寧^①に把握し、指導に生かす

年度末には、各教科で育成を目指す資質・能力について、その到達度を生徒に4段階で自己評価させるアンケートを実施（図3）。目標値を2.8とし、経年変化を追っていくことで指導改善につな

げている。

実習や探究学習が授業の中心となる「総合実習」と「課題研究」では、ポर्टフォリオも活用した。「何を学び、何ができるようになったか」「その研究は、地域や社会にどう役立つか」「その学びを将来どう生かしていくか」の3項目について、生徒は各学期末に記述し、学習を振り返る。

ポर्टフォリオは、アンケートでは把握しきれない生徒の変容をつかむ役割を担う。例えば、1学期のポर्टフォリオで、「糖度の高いブドウを作りたい」と書いた生徒が、年度末には「消費者のニーズに合致した低価格高糖度の大阪ブドウを独自に開発し、府内の果樹農家に提供したい」と記述し、学習を通じて社会的な視点を身につけたことが見て取れた。「生徒は、振り返りを通じて、自分の研究の社会的意義を論理的に説明することができるようになります。そうした力は、学校推薦型選抜や総合型選抜でも評価されるものですから、丁寧に見取るよう心がけています」（鳥谷先生）

ブリークスルー

合意点を確認しながら推進

1歩ずつ丁寧に進め、取り組みの趣旨を浸透させる

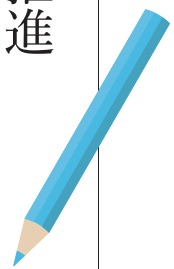
18年度にSPH委員会を立ち上げてから3年余りで、グラントデザイン^②の策定からアンケート等を用いた評価・検証の仕組みまでを整えた同校だが、取り組みが軌道に乗るまでは、教師から戸惑いの声が度々上がった。そうした中でSPH委員会が意識したのは、委員会^③で素案を作成し、それを基に職員会議などの場で教師全員による議論を行うことで、合意点を確認しながら地歩を固めていくことだった。

「取り組みが停滞していると感じても、強引に進めようとせず、目的や内容を丁寧に説明し、様々な声に耳を傾けました。そうすることで、大多数から納得を得た上で物

事を決めるようにしました。その過程で、本校が行うべき教育が浸透し、取り組みへの戸惑いが解消されていきました」（鳥谷先生）

さらに、各教科・科目で育成を目指す資質・能力を設定し、一覧表（P.21図2）にしたことで、科学習や特別活動などですべきことが明確になった。取り組みが自分中心となり、授業改善が進んでいったという。

取り組みの負荷を減らすことも重視した。SPH委員会を立ち上げた18年度に30回近く行っていた委員会の会合は、20年度には10回以下に抑えた。また、年度末に生徒を対象に実施するアンケートは、教科ごとでの実施形態を変更し、普通教科は、アンケート項目を精選して1枚の用紙にまとめ、回答が1回で済むようにした。





育てたい人物像に基づいて
教育課程のあり方を話し合う

教師間で育てたい人物像の共通認識を図ってから、物事を決めるスピードが一段と速くなった。

例えば、22年度入学生教育課程の編成に取り組む際、教務主任の井上先生は、「地域創生ジェネラリスト」の育成に向けて、専門科目の選択科目を精選し、学科共通の必修科目の授業時数を確保すべきではないかと考えた。選択科目で習得するような、より専門性の高い知識・技能は、生徒が自身の関心を基に研究テーマを設定し、探究を深める「課題研究」で育成できているからだ。

「専門知識や技能の習得とともに、専門以外の分野にも幅広く目を向けて学習することが、本校の目指す『地域創生ジェネラリスト』の育成に合致するのではないかと、各学科の先生方と話し合いました。育てたい人物像を共有できていたことで、選択科目の精選がスムーズに進みました」（井上先生）

アップグレード

3観点での評価方法の確立を図る

3観点での学習評価を試行、ICT活用の研修も実施

SPHの指定が20年度で終了した後も、教育の質を高める取り組みを精力的に継続している。

今、力を入れているのは、新学習指導要領が求める学習評価の方法を確立させることだ。現在の学習評価は、現行課程の4観点に基づいて行っているが、22年度から始まる3観点での評価の実施に向けて知見を蓄えようと、4観点での評価に加えて、3観点での評価を各教科・科目で試行している。

「大阪府は、『知識・技能』『思考・判断・表現』『主体的に学習に取り組む態度』の評価を同じ比率で総括して評価を出すとしており、その方法を試行中です。また、『主

体的に学習に取り組む態度』を適切に評価するためには、生徒主体で活動する場面をさらに増やす必要があると考えています。そうした授業のあり方も、各教科で検討しています」（井上先生）

「ICTを既に授業で活用している教師が講師となり、タブレット端末の基本操作や授業での効果的な活用方法に関する研修会を、適宜開催しています。ICT初心者の教師にとっては、ICTを活用した授業づくりの情報交換の場になっていきます。今後、教師間で連携し、教育の質の向上を図っていきます」（喜多校長）



校長
喜多英一
きた・ひでかず

教職歴37年。同校に赴任して2年目。



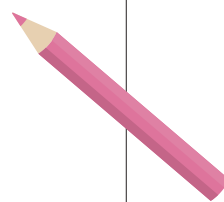
首席
烏谷直宏
からすだに・なおひろ

教職歴18年。同校に赴任して14年目。農業科。



首席、教務主任
井上佳奈
いのうえ・かな

教職歴12年。同校に赴任して3年目。国語科。



新学習指導要領の実施が2022年度に迫る中、21年度は、新課程に向けた計画とその実践を通じた授業と評価の改善が求められる。新課程初年度に向け、実践事例や解説記事により現場の疑問や課題を解決し、自校の計画・実践につながる情報を提供する。

— 疑問や課題を解決！実践につながる！ —

新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

テーマ

新課程 1 期生入学に向けた「情報Ⅰ」の準備

セミナーレポート

ウェブセミナー 新課程 1 期生入学に向けた学びの設計と実践 第 6 回 先進校の実践から「情報Ⅰ」の授業を考える

新学習指導要領に対応した2025年度大学入学共通テストの出題教科・科目等として新設されることが正式発表され、注目度が高まっている「情報Ⅰ」。各学校では次年度の教科書採択も完了し、年間授業計画の立案に向けて準備が進んでいる。教科「情報」は、専任教師が少ないため、多くの学校が具体的な授業実践の事例を求めている状況だ。そこでベネッセ教育情報センターは、「情報Ⅰ」の授業実践をテーマとしたウェブセミナーを実施した。

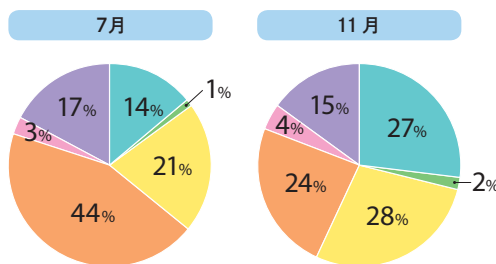
「情報Ⅰ」の授業準備が進む中、求められる実践例

新課程で大きく変化する教科「情報」。各校では、「情報Ⅰ」の授業実践に向けての準備が進んでいる。2021年7月にベネッセ教育情報センターが開催した第4回ウェブセミナーで実施した参加者へのアンケート調査では、「情報Ⅰ」について「準備をする必要はある」と思っているが、何から始めればよいか分からない」と回答した割合は44%だったが、11月の調査では24%に減少。一方、「今年度、『情報Ⅰ』を想定した実践を授業内で一部展開している」と回答した割合は倍増した(図1)。

「情報Ⅰ」は、「情報社会の問題解決」「コミュニケーションと情報デザイン」「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」の4章から成る。特に、「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」は、新規の項目や「情報の科学」以上に高度な理解が求められる内容も多い。今回のウェブセミナーの参加者からも、「新しい学習内容どのように年間指導計画を立てるかが課題」といった声が多く聞かれた。そこで、講師の能城茂雄先生には、各章で学習する内容の要点の確認とともに、具体的な授業実践の工夫をご紹介いただいた。

図1 「情報Ⅰ」の準備状況

- 今年度、「情報Ⅰ」を想定した実践を授業内で一部展開している
- 「情報Ⅰ」の年間指導計画を立て終わっているが、実践などは行っていない
- 「情報Ⅰ」の年間指導計画を立てている最中だが、実践などは行っていない
- 準備をする必要はあると思っているが、何から始めればよいか分からない
- まだ準備をスタートしていない、現時点では準備をする必要はない
- 準備の担当ではない



※2021年7月に開催した情報教育に関するセミナーの事前アンケート 515 人の集計結果と、2021年11月に開催した情報教育に関するセミナーの事前アンケート 451 人の集計結果。

新学習指導要領「情報Ⅰ」に向けて

東京都立三鷹中等教育学校 能城茂雄

情報を使いこなし、問題を解決する力を育む

講演では、「情報Ⅰ」を構成する4つの章、すなわち、「情報社会の問題解決」「コミュニケーションと情報デザイン」「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」のねらいを、具体的な授業実践例を交えながら解説いただいた。

「情報社会の問題解決」では、「情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身につけるこ



東京都立三鷹中等教育学校 能城茂雄 のしろ・しげお

教職歴24年。同校に赴任して9年目。情報科、文部科学省学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者（共通教科情報）。

情報Ⅰ」に向けて

と」が求められる。授業で取り上げる問題例として、能城先生が勤務する東京都立三鷹中等教育学校の適性検査の問題（小学6年生が受験する入試問題）を示した（図2）。その問題では、8方位を4つの碁石の並びで表現しているが、それは、黒の石を1、白の石を0とした2進法を使って、方位という情報を表したものだ。そのように、固定長（碁石の数が決まっているルールA）ではなく、可変長（碁石の数が決まっていないルールB）にすると生じる問題点を、例を示して説明することを求めるような授業も一例として考えられる。

能城先生が「情報Ⅰ」の中でも重要視するのが、「コミュニケーションと情報デザイン」だ。同章では、メディアの特性やコミュニ

図2 情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する問題例

問題例

Aさんは、メモを見ながら碁石を机の上に並べています。

Bさん : Aさん、なぜ碁石を一直線に並べているの？
Aさん : これは、白と黒の碁石を左から並べることで方位を表しているんだ。
Bさん : どうやって方位を表すの？
Aさん : 友達と作った宝探しゲームの中で、白と黒の碁石を並べて方位を表すルールA（表1）を決めたんだ。
このルールAは、碁石を4個使って8方位のそれぞれ一つを表しているんだ。
Bさん : 白と黒の碁石の並べ方で方位を表すことができるんだ。おもしろいね。
Aさん : いくつかの方位を続けて表すこともできるよ。例えば、最初は東、次に北、その次も北、最後に北東と順番に表すときは、図1のように碁石を並べるんだ。

図1

Bさん : 並べてる碁石を左から順番に見れば分かるのね。でも、碁石の数が多くな。並べる碁石の数を減らすために、ルールAの8方位を表す並べ方で、最初に出てくる黒い碁石の前にある白い碁石を全部省略したらどうかな？

Bさんは、新たなルールB（表2）を提案しました。

Bさん : こうすれば、ルールAに比べて北の方位を表す碁石の数が4個から1個に減らせるから並べる碁石の数が減っていいと思うの。
Aさん : でも、ルールBだと表したい方位が正確に伝わらないこともあるから問題があるね。

問題:Aさんが指摘したルールBの問題点を碁石を4個並べた図の一つ示して説明しなさい。

解答の一例 この碁石の並びでは、「西、北」とも「北東」とも読み取れ、方位が1通りに決まらない

※2014年度東京都立三鷹中等教育学校入学者適性検査問題。

ケーション手段の特徴を踏まえて、伝えたい内容を的確に伝えるために必要な考え方や方法を身につけることをねらいとしている。そのため、ここでの「デザイン」とは、いわゆる芸術的なデザインとは異なり、目的や意図を持った情報を受け手に対して分かりやすく伝達したり、操作性や認知性、安全性を高めたりするためのデザインの基礎知識と技術のことであ

る。授業実践につながる実例として、能城先生は自身の講演スライド（P.26図3）を使って、「伝わりやすくなる、見やすくなる」という問題解決のために、文字のフォントの選択に留意した資料づくりなども、同章での取り組みとして考えられると説明した。「コミュニケーションと情報デザイン」の学習内容は、「コンピュータとプログラミング」「情

図3 目的や意図を持った情報デザインの例



※能勢先生提供資料をそのまま掲載。

報通信ネットワークとデータの活用」の内容と密接につながる。例えば、プログラムを書く際には、データの構造を理解し、どのデータをどのような手順で整理するかを理解できなければ、適切なコードを書くことができない。そうした点からも、「コミュニケーションと情報デザイン」は非常に重要な領域だと、能城先生は強調した。

「コンピュータとプログラミング」は、コンピュータや情報通信ネットワークの機能を使う方法と技能を身につけ、モデル化やシミュレーションなどの目的に応じて、コンピュータの能力を引き出す力を養うことをねらいとしている。授業実践を考える上で参考になるのが、大学入試センターが試作したプログラミングの問題（検討用イメージ）だ（図4）。同問

試作問題から得られる指導のヒント

題では、アルファベットをずらすことで暗号をつくるシーザー暗号が出題されたが、文字の出現頻度から複合化の手がかりを探しプログラムを考える問題となっており、類似の内容の学習経験があれば、学習する言語が異なっても生徒は対応可能だろう。

だが、授業時間が限られる中で、プログラミング学習に充てられる時間は限られている。能城先生は、プログラミングの基礎は「Pスタディ」（*）などのオンライン教材を活用して、生徒が放課後など

にそれぞれのペースで学び、学校では、身につけた知識を生かす協働的な学習を行い、深い学びへとつなげる反転学習を行っている（図5）。そうして知識・技能の習得を生徒に委ねるようにしても、例年ほぼ同じ試験問題で実施している定期考査の平均点は、これまでとほとんど変わらないという。

「情報通信ネットワークとデータの活用」は、インターネットやLANなどの仕組みを理解し、データの蓄積・管理・提供、収集・整理・分析、そして、情報セキュリティ

図4 プログラミングの問題例

<https://www.ipsj.or.jp/education/9faeag0000012a50-att/sanko2.pdf>

「情報」試作問題（検討イメージ）で 検索

※セミナーでは、試作問題 第5問を例に解説

能城先生コメント

学習指導要領では、教科「情報」でどんな言語を使うか、指定はされていません。だからこそ、どんな言語でも対応できるように、生徒に経験を積ませることが重要です。限られた授業時間ですが、実際にプログラムを書くような問題に取り組んでおくだけでも、共通テストに必要な問題対応力が高まります。

図5 反転学習の活用

■生徒が作成するプログラムの一部



■反転学習と組み合わせる学ぶ生徒の声

□生徒の反応（抜粋）

- プログラミングにおいて、for文など、覚えてしまえば色々工夫して多くのことが出来ると知った。組み合わせ方1つでたくさんのができそうだとおもしろい。
- 今までプログラムは複雑で覚えるべきこともたくさんある印象があったが、学習の積み重ねで構造が理解できるようになってきたことに喜びを感じた。

能城先生コメント

プログラミングに割ける時間は足りないのが学校の現状だと思います。だからこそ、ICTを活用して事前学習を行い、事後学習として、学校のパソコン教室でのプログラミングを行うなどの工夫が求められます。本校では、1学期から2学期に切り替わる時期、2か月くらいの期間で反転学習を実施します。「情報」の授業では、プログラミングの説明に6時間を充てています。

* ベネッセが提供する「情報I」に対応した学習支援教材



能城先生より全国の先生方へ

「情報Ⅰ」を軸に 教育活動をよりよくつなげましょう

「情報Ⅰ」が大学入学共通テストの出題科目となることが決まった今、先生方は、各大学の入試ではどのような扱いになるのか、大きな関心を持っていらっしゃると思います。ただ、各大学の入試でどのように位置づけられようとも、「情報Ⅰ」は、生徒が21世紀の社会を生き抜く上で、軽視することができない教科です。今、生徒は、どのような進路を選び、どのような職業に就こうとも、外国語や異文化理解に関する力が必要であることを知っています。「情報Ⅰ」も全く同じだと私は思います。

「情報Ⅰ」の授業で身につけた力は、総合的な探究の時間を始め、すべての教科の学びに生かすことができます。先生方にはぜひ、「情報Ⅰ」という教科を軸に、学校の教育活動をよりよくつなげていけるような大きな視座で、22年度を迎えていただきたいと思っています。

を学ぶ。現在、多くの家庭がルー
タやハブを持ち、プロバイダと契
約している。ルータ、ハブ、プロ
バイダがどのような役割を果たし
ているのかを理解させ、生徒が自
分でネットワークを構築できるよ
うに教えていくことが求められる
。選択する回線の種類によって、
使用料金や動画投稿サイトを見
る際の快適さが変わることなどを
伝えることで、現代のライフライ
ンとも言える情報通信ネットワー
クに興味を持つことができるだろ

う。そのためには、教師自身がま
ず、情報通信ネットワークに関す
る様々な用語を適切に説明できる
ようになることが求められる。
また、データの活用の項目のう
ち、データベースの内容について
は、データベースが何か、これか
ら学ぶ内容がどのようなものかを
イメージさせるために、生徒はま
ずは教科書を読んだ上で、「Pス
タデー」のデータベース講座を受
講し、その後、能城先生が補足説
明を行うようにしているという。

「情報Ⅰ」の授業と生徒の学びのご支援に向けて、 学習教材とテストを2022年度からリリースします！



デジタル・
情報活用力
学習プログラム

重要なポイントをまとめた動画、ブラウザ
だけで実施できるプログラミング教材など、
「情報Ⅰ」を丸ごと学習できる教材です。



デジタル・
情報活用力
テスト

結果は受検後即確認ができる完
全CBT型テスト。問題解決型を
含む新課程を踏まえた出題です。

Pプラス
公式サイト

<https://www.p-pras.com/>

Pプラス ベネッセ 検索

2022年度のリリースに先駆けて
無料お試し版公開中！

▶無料サンプルダウンロードはこちらから！
<https://www.p-pras.com/otameshi/>



新課程に関する情報は、
『**ハイスクールオンライン**』で
お届けします！



事例・解説

- 本セミナーの
アーカイブ動画・資料を掲載
- 過去のウェブセミナーの
アーカイブ動画・資料も掲載



動画解説

- 有識者による
新課程の動画解説も満載

青森県・私立東奥義塾高校

客観的な学力指標による進路指導

「行きたい大学」を目指す生徒を育て、指定校制選抜に
おいても、志望校に求められる学力を身につけさせる



学校概要

- ◎設立 1872 (明治5) 年
- ◎形態 全日制/普通科/共学
- ◎生徒数 1学年定員 320 人
- ◎2021年度入試合格実績 (現浪計) 国公立大は、北見工業大、北海道教育大、弘前大、東北大、筑波大、埼玉大、東京学芸大、青森県立保健大、青森公立大などに 53 人が合格。私立大は、弘前医療福祉大、弘前学院大、東北学院大、青山学院大、東京理科大、明治大などに延べ 138 人が合格。

変革の背景

指定校制選抜の枠にとらわれずに、
将来の可能性を考えさせたい

青森県弘前市の南部に位置する私立東奥義塾高校は、CⅠコース (特別進学コース)、CⅡコース (グローバル人材育成コース)、Bコース (総合コース) の3コースから成る。CⅠコースは、国公立大学を志望し、一般選抜を受験する生徒が中心だ。一方、他の2コースでは、大学進学希望者の大半が、指定校制による学校推薦型選抜 (以下、指定校制選抜) を希望する。高校生活や定期考査での地道な努力を評価し、学校は生徒を推薦するが、実

際は、その大学に見合った教科学力が身につけていないことが少なくなかった。入学前に大学から出された事前課題に担任の支援を受けながら取り組む生徒や、大学入学後、授業についていけず、留年や退学をしてしまう卒業生もいた。広報渉外部長 (前進路指導部長) の柘植将夫先生は、次のように語る。

「指定校制選抜で合格する大学数の多さは、本校の特徴として地域に浸透しており、それを理由に本校を志望する中学生も少なからずいます。ただ、指定校制選抜で大学に入学しても、退学をしてしまったら、希望進路をかなえられたいとは言えません。大学での学びに
対応できる力を身につけさせるとともに、途中で困難があったとしても学び続けたいと思

える大学に進学できるよう支援することが必要だと感じました」

指定校制選抜がある大学の中から志望校を選ぼうとする生徒に、もどかしさを感じる場面もあった。

「生徒には、『行ける大学』ではなく、『行きたい大学』を目指してほしい。将来の夢の実現や目標の達成につながる大学・学部を選択し、大学での学びに必要な学力を高校ですっかり身につけ、大学生活を意欲的に送る。そのためにはまず、進路指導を変えようと考えました」 (柘植先生)

そこで同校は、2019年度から、全国規模のアセスメントを全コースで導入し、客観的な学力指標を軸にした進路指導を始めた。

図1 アセスメントの事後指導で生徒に配布している、各ゾーンの目安となる大学群についての資料

GTZ (学力)	国公立大	私立大
S1	東京大・京都大・一橋大	—
S2	大阪大・東京工業大	早稲田大・慶應義塾大・国際基督教大
S3	東北大・東京外国語大・国際教養大・名古屋大	上智大・同志社大
A1	千葉大・筑波大・北海道大・横浜国立大・東京農工大	明治大・青山学院大・中央大・立教大・東京理科大
A2	埼玉大・東京都立大・横浜市立大・東京学芸大	法政大・明治学院大・立命館大・学習院大・成蹊大
A3	山形大・岩手大・弘前大・福島大・秋田大	駒澤大・北里大・文教大・専修大・順天堂大
B1	岩手県立大・青森公立大・秋田県立大・会津大・琉球大	東北福祉大・日本大・東北芸術工科大・東洋大
B2	長岡造形大・秋田公立美術大・公立はこだて未来大	東北学院大・宮城学院女子大・東北医科薬科大・東海大
B3	筑波技術大	尚綱学院大・東北文化学園大・仙台大・盛岡大
C1	—	東北芸術工科大・東北生活文化大・城西国際大・奥羽大
C2	—	ノースアジア大・石巻専修大・青森大・郡山女子大
C3	—	富士大・千葉経済大・作新学院大・中央学院大
D1	—	—
D2	—	—
D3	—	—

※学校資料を基に編集部で作成。

変革の一手

アセスメントを活用した、生徒の視野を広げる先進事例を参考に指導方針を転換

指定校制選抜で大学に進学する生徒の学力と、その大学で求められる学力との間に差が生じていた一因には、校内選考での判断材料の少なさがあった。

同校では、一般選抜を受験するCⅠコースは模擬試験を受験していたが、CⅡ・Bコースでは受験していなかったため、客観的な学力指標がなく、指定校制選抜の校内選考では、評定平均値を主な判断材料とせざるを得なかった。そのため担任は、「あの生徒は、A大学の出願基準の評定平均値に達している。普段の学習も地道に努力しているから大丈夫」などと、生徒を推薦していた。そうした進路指導の転機となったのが、18年度、当時進路指導部長だった柘植先生が参加した、盛岡市で行われたベネッセ主催の私学研究会だった。

「大阪府の私立高校が、GTZ（*1）を活用して生徒の可能性を見だし、それを生徒自身に気づかせて進路選択の視野を広げていると聞き、それこそが本校に必要な視点だと気づきました。定期考査の結果を基にした評定平均値だけでなく、生徒の総合的な教科

学力を把握することが必要であり、生徒が志望校から求められる学力と自身の学力との差をつかむ上でもGTZは有効だと考え、早速、全コースでのアセスメントの実施を職員会議で提案しました」（柘植先生）

進路指導にアセスメントを活用することへの教師の不安を解消するため、柘植先生は、先進校の取り組みと成果を、資料を用いて説明し、アセスメントの活用が進路指導に必要なことを伝えた。19年度に「高校生のための学びの基礎診断」が始まったことも後押しとなり、19年4月から全コースでアセスメントを実施することになった。

生徒の学力と大学で求められる学力の差を、色分けした一覧表で可視化

アセスメントは、4月と11月の年2回、CⅠ・Ⅱコースは「スタディーレポート」、Bコースは「基礎力診断テスト」（*2）を実施している（CⅠコースは、進研模試も実施）。

事前・事後指導も、全校体制で行っている。事前指導では、アセスメント実施の前月に、「Classi」（*3）で出題範囲の学習動画を配信し、付属の事前課題に取り組ませて、担任が状況を確認。その上で、教科担当が、授業で事前課題の重要ポイントを解説し、質疑応

*1 ベネッセのアセスメントにおける共通の学力評価指標、「学習到達ゾーン」のこと。「S1」～「D3」の15段階で評価される。 *2 ベネッセのアセスメント「進路マップ」の1つで、義務教育範囲も含めた基礎学力を測るマーク式テスト。 *3 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社であるClassi株式会社が提供する、学校教育でのICT活用を総合的に支援するサービス。

答を行う。事後指導では毎回、学年ごとに集会を開き、学年全体の学力状況を伝えるとともに、結果帳票の見方やG T Zの意味を説明して、アセスメントの振り返りと志望校選択への活用を促している。進路指導部長の今井^{ひでゆき}偉之先生は、次のように述べる。

「G T Zのゾーンごとに、合格を目指せる大学を目安として示しました（P. 29 図1）。生徒が自分のG T Zと比べられるようにし、指定校制選抜の枠にとらわれずに自分が学びたい学問から大学を選び、より高い目標を目指す意欲を喚起させることがねらいです。指定校制選抜を希望する生徒には、志望校が求める学力レベルを知り、それに見合った学力を身につけるよう指導しています」

教師の意識改革にも、客観的な学力指標を活用した。指定校制選抜合格者のG T Zを一覧表にし、合格した大学の目安となるG T Zより3ランク以下の場合には赤、2ランク下は紫、1ランク下はピンク、同等または生徒のG T Zの方が上の場合には黄にし、全体の状況がひと目で分かるようにした。

アセスメント導入初年度の19年度の3年生では、赤中心の表になり、合格した大学が求める学力に達していない生徒が多いことが分かった。それを職員会議で説明すると、「進学先に応じた学力を生徒に身につけさせる必要がある」「生徒が志望校を深く知った上で

選択できるようにしよう」といった声が教師から上がり、客観的な学力指標を活用した進路指導につながった。その結果、20年度の指定校制選抜では、生徒の学力と進学先の目安となった学力の乖離が減少し、3ランク以上差があった生徒の数は半減した。

「面談等で、『G T Zが志望校の求める水準から2ランクも離れている。部活動だけでなく、学習にも力を入れよう』というように、担任が生徒に、自分の学力を意識して志望校を検討するよう、G T Zを使って促した結果だと考えています。生徒は、志望校を再考したり、志望校が求める学力を身につけられるよう努力したりするようになりました」（柘植先生）

地域課題をテーマとした探究学習を通じて、将来への視野を広げる

生徒が社会を知り、進路をより広く考えられるよう、20年度には、「総合的な探究の時間」を「シンカTIME」と名づけ、地域課題と自分の希望進路を結びつける探究学習を始めた。例えば、Bコースでは、1・2年次に、生徒が様々な社会の課題を知り、探究学習のテーマを探すことを目的とした、全6回の基礎講座を設定。教頭や進路指導部長など、6人の教師が、「電気自動車」「健康（短命県返上）」など、自身の専門分野と地域課題、そ



進路指導部長
今井偉之 いまい ひでゆき
教職歴16年。同校に赴任して17年目。
数学科。



広報渉外部長（20年度進路指導部長）
柘植将夫 つげ まさお
教職歴20年。同校に赴任して21年目。
英語科。

してSDGsを関連づけたテーマで授業を行う（図2）。生徒は、すべての講座を受けた上で、自分が関心を持った分野における地域課題の視点で探究するテーマを設定し、インターネットなどを使って調べ学習に取り組む。そして、2年次の2学期には、調べた内容を活用しながら、志望理由書を作成する。「『シンカTIME』は、他コース・他学年の教師とのチーム・ティーチングとしています。普段あまりかかわりのない教師と交流し、多様な人生観に触れることで、生徒の視野を広げることがねらいです」（柘植先生）

変革の成果・展望

担任以外の教師や部活動の顧問にもアセスメントの意義が浸透

全校でアセスメントを導入して2年が経

図2 Bコースの2021年度「シンカTIME」基礎講座の内容

テーマ	概要	関連するSDGs
電気自動車	今後、世界的に電気自動車の普及が加速すると予想されるが、いまだに課題も多い。電気自動車のメリットとデメリットを理解し、今後の普及について考察する。	目標8 働きがいも経済成長も、目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう、目標13 気候変動に具体的な対策を
健康 (短命県返上)	1年次:自分や家族の生活習慣を見直すために自分を知る。 2年次:短命県返上のために、自分にできることを考える(職業選択へのきっかけづくり)。	目標3 すべての人に健康と福祉を
1年次:生きる、 2年次:働く	1年次:変化の激しいこの時代をしなやかに美しく生き抜いていくためには何が必要なかを考える。 2年次:働く上で大切なことを考える。	目標3 すべての人に健康と福祉を、目標4 質の高い教育をみんなに、目標8 働きがいも経済成長も
「おやさいクレヨン」 (*4)から見る 県内企業の 取り組み	「おやさいクレヨン」の開発・販売の事例について知り、SDGsに基づいた県内の取り組みを通じて、自分の将来を考える。	目標2 飢餓をゼロに、目標8 働きがいも経済成長も、目標11 住み続けられるまちづくりを、目標12 つくる責任 つかう責任
進路選択と SDGs	1年次:探究マトリクスを用いて1つのテーマを「現在・過去・未来」と「5W1H」をかけ合わせて分解。そこに浮かび上がる素朴な疑問を大切に、探究課題を設定する手がかりとする。 2年次:例えば、人の命を救うという夢をかなえられる仕事は、医療系に限らずたくさんある。それらの仕事について知り、自分はどのような形で「人の命を救いたい」のかを掘り下げる。	目標1~17
職業選択に ついて	[問いかけ] 自分の適性を理解し、その職業が自分に向いているかをよく考える。将来的な成功が見込める業種なのか、家族の理解は得られるのか、その仕事で家族を一生養っていく覚悟はあるのか、好きな仕事なのか、近々の目標と将来的な目標はあるのか。	目標8 働きがいも経済成長も

*学校資料を基に編集部で作成。

ち、客観的な学力指標を軸とした進路指導は全コースに浸透した。アセスメントの受験当日は、試験監督を務める担任の支援として、担任以外の教師も率先して見回りをするなど、協力してくれる風土ができた。さらに、部活動の顧問がアセスメントの受験前に、部員を集めて学習会を開いたり、事前課題の取り組みを促したりするようになった。

「アセスメントは、試験科目である5教科の教師だけに関係すると思われがちですが、生徒に真剣に取り組ませるためには、全教師で働きかけることが重要です。『部活動に加えて、学習にもしっかりと取り組もう』と声をかける部活動の顧問が増え、学校全体で積極的に学力向上を支援していく機運が高まっています」(今井先生)

生徒の意識にも変化が表れ始めた。部活動に力を入れてきた生徒が、志望校に見合った学力をつけたい一心で学習を頑張り、学力を大幅に上げた。客観的な学力指標を得たことで、努力が結果に結びつくことを実感することができているのだ。

指定校制選抜にとられずに、自分の目標を見いだす生徒も増えている。19年度大学入試では、Bコースから弘前大学のAO入試(現、総合型選抜)に7人が出願し、4人が合格した。Bコースの生徒が国立大学のAO入試にチャレンジしたのは初めてであり、なおかつ結果も出したのだ。20年度大学入試では、Bコースから15人が弘前大学の総合型選抜に挑戦した。GTZを進路選択の指標にすることで、生徒は自分もさらに高い目標を目指すのではないかとという自信や期待を持つようになった。

今後の課題は、アセスメントの結果を教科担当の教師が受け止め、授業改善に生かしていくことだと、柘植先生は語る。「志望校が求める学力を生徒に身につさせる授業の実践が、教師の責務だと考えます。アセスメントの結果は、教師の指導に対する評価でもあるといった意識を持ち、うまくいかないこともあります。改善のために日々努力を続けたいと思います」

*4 米油とライスワックスをベースに、野菜を原材料にして着色したクレヨン。小さな子どもが安心して遊べるようにと、青森県在住のデザイナーが開発した。



学年団を訪ねて

自律的学習者の育成に向けて、 具体的な目標を設定し、生徒の日常に伴走する

福岡県立朝倉高校 1学年団

「朝倉高校の生徒は、教師から言われなくても自分に必要な学習ができる」。同校の卒業生でもある神坂貞和先生が抱いていたそうした生徒像は、近年少しずつ変化しており、自律的学習者の育成は、教師が取り組むべき課題の1つとなっている状況だった。



直面した課題

- ◎生徒の主体性を重視する同校だが、生徒の気質の変化の1つとして、自律的に学習を進められるようになるまで教師の手厚い支援が必要な生徒が多く見られるようになった。
- ◎赴任歴の浅い教師や若手教師が多いことから、生徒の情報を密に共有し、指導観をそろえていくためのコミュニケーションが必要だった。

学校概要

福岡県立朝倉中学校として開校し、2021年で創立113年を迎える歴史と伝統を誇る。「聡明・自立・敬愛」を校訓として、一人ひとりが自己実現を果たすとともに、国家・社会の発展に寄与する人材の育成を目指す。「文武両道」の校是の下、展開する部活動は、全国大会・九州大会に進出する部も多く、生徒の部活動加入率は90%を超える。高い知性 (Intelligence) と豊かな人間性 (Character) を身につけることで、自己実現と社会貢献を行える人材を育成する課題研究プログラム「朝倉I・Cプログラム」など、次世代人材の育成にも力を注ぐ。



設立 1908 (明治41) 年
形態 全日制/普通科/共学
生徒数 1学年約 240 人

2021年度入試合格実績 (現浪計) 国公立大は、広島大、九州工業大、九州大、長崎大、熊本大などに73人が合格。私立大は、東京理科大、明治大、同志社大、立命館大、関西大、西南学院大などに延べ518人が合格。

最初の学年会議で打ち出した 指導コンセプト「自律に至る他律」

福岡県中南部の中核校としての歴史を積み重ね、生徒、保護者、地域の期待に応えてきた福岡県立朝倉高校。だが近年、「朝倉高校に入学できたから、今後の進路は安心だ」と、入学段階で満足し、広い視野で進路を考える生徒が減ってきたと、2021年度の1学年主任になった神坂貞和先生は感じていた。

「最近では、地元を志望する生徒が多くなりました。有名私立大学の指定校制の学校推薦型選抜でも、関東や関西の大学の場合、志願者が現れないこともあります。もちろん、地元志向が悪いわけではありませんが、地元の大学でしか学べない学問に興味があるといった理由があつての志望ではなく、自分の身近な世界で満足しているように思います。生徒には、広い視野と挑戦心を持って進路を選択してもらいたいと思っています」

学習面において生徒の主体性を尊重する伝統を持つ同校でも、家庭学習時間の減少傾向が顕著であり、かつてのような「教師から言われなくても必要な学習ができる」という生徒の気質に変化が見られるようになってきた。そこで神坂先生は、「探究学習や進路指導の充実とともに、日々の学習においても、

今、何を、どのくらい行うべきかを生徒に明確に示す必要がある」と考えるようになった。

「教師に示されたことをしっかりと行えるといった、本校の生徒の素直さは今も変わりません。そうした生徒のよいところを生かしたいと思いました。そこで、1年次の指導コンセプトとして、『自律に至る他律』を最初の学年会議で先生方に示しました。1年次は、教師に伴走してもらいながら、すべきことができるようにし、2年次には、自律的に学習ができるようにする。3年次は、他者のことを考えながら行動できるようにする。そのよううな、3年間で段階的に生徒を育成する指導ストーリーを学年団で共有したので」

日々の家庭学習記録を活用し、 学習意識を高める

「自律に至る他律」を実現するために学年団で活用しているのが、神坂先生が作成した「学習状況調査」だ（P.34図）。1か月分が1枚のシートになっており、その月の生活・学習面の目標、家庭学習時間の目標総時間数があらかじめ記載されている。生徒は同シートに日々の学習時間を記録するだけでなく、起床時間や学習開始時間など、生活リズムを整える上でポイントとなる時間を一定にでき



リーダーに聞く！ 5つのQ&A

Q どのようなチームを目指しましたか？
生徒の成長のために、明確な目標を持って、ぶれずに進んでいけるチームです。

A リーダーとして心がけていることは？
先生方の思いや考えをくみ取り、学年団の動きが円滑になるよう、調整する労をいとわないこと、困っている人がいたら助けること、そして、ぶれないことです。

Q 学年団としての「成功」は？
2年生になった時に、自律していけるような下地が1年次にできていることです。

Q リーダーとして自覚する
長所は何ですか？

A 先生方にお願ひ事をする時に、なぜそれが必要なのか、どのようにすればよいのかを、納得できるように説明できることです。

Q リーダーとして自覚する
短所は何ですか？

A 先生方への配慮、気遣いがまだまだ足りないと感じています。若輩者の私が、もしかするとストレートな物言いをしてしまっていることがあるかもしれませんが、先生方は「生徒のためなら」と受け止めてくださっています。先生方の人柄に救われていると感じます。

図 学習状況調査

第1学年 11月学習状況調査		評価		今月の振り返り		目標 5300 分	実施	分												
月間目標: ①自己分析・自己理解に努め効果的に学習習慣をつける!								組番氏名												
月間目標: ②模試、考査受験前・模試、考査受験後の取り組みの徹底																				
日付	行事(変更が有るもので注意すること)	行動の記録						毎日やること(O, Δ, X)		学習の記録(分)					満足度	1日の振り返り				
		起床 時刻	夕食 開始 時刻	学習 開始 時刻	入浴 開始 時刻	就寝 時刻	TV マンガ ゲーム等 時間	スマホ 時間	勉強 時間	勉強が 定か らぬ 時間	国語	数学	英語	現代 社会			理科	その他	合計	累計
1月		6:00	20:00	21:00	20:30	2:00	0	60	0	0	5	60	60	0	0	0	180	180	○	
2火		6:00	20:00	21:00	20:30	2:00	0	60	0	0	5	60	60	0	0	0	180	360	△	
3水	文化の日	7:00	19:30	21:00	20:30	2:00	0	120	0	X	3	60	60	90	0	0	300	660	○	
4木		6:00	20:00	21:00	20:30	2:00	0	60	0	0	5	60	60	0	0	0	180	840	△	
5金		6:00	20:00	21:00	20:30	2:00	0	60	0	0	5	60	60	0	0	0	180	1020	○	
6土	進研総合学力テスト(1, 2年)	6:00	21:00	22:00	20:30	2:00	0	60	0	X	3	0	60	60	0	0	120	1140	△	
7日		9:00	20:00	23:00	21:30	2:00	0	120	0	X	3	0	60	0	0	60	180	1320	○	
8月		6:00	20:00	21:00	20:30	2:00	0	60	0	0	5	30	60	30	0	30	150	1470	○	
9火	暴力団排除・薬物乱用防止講演会	6:00	20:00	20:30	21:00	1:00	0	60	0	0	5	60	0	60	0	0	180	1650	○	
10水		6:00	20:00	21:00	20:30	2:00	0	60	0	0	5	60	60	0	0	0	180	1830	○	
11木	考査時間別発表	6:00	20:00	21:00	20:30	2:00	0	60	0	0	5	30	0	60	0	60	150	1980	○	
12金		6:00	20:00	21:00	20:30	2:00	0	60	0	0	5	60	60	0	0	0	180	2160	○	
13土		6:00	21:00	22:00	20:30	2:00	0	60	X	X	1	0	60	30	0	0	90	2250	X	
14日		6:00	19:30	21:00	20:30	2:00	0	60	0	0	3	0	60	60	0	0	180	2430	○	

神坂学年団で活用している学習状況調査。1か月分が1枚のシートになっており、生徒は1日の家庭学習時間などを毎日記入して担任に提出している。部活動が忙しい時などは、生徒は普段通りの学習ができないなど、学習面の調整力に課題が見られる。だからこそ、1か月という期間で学習時間をコントロールすることが大切だと生徒に伝え、学習状況調査の意義を感じさせるようにしている。

※学校資料をそのまま掲載。

たかどつかを自己評価し、その結果に対するコメントを一言書いて、担任に毎日提出する。学校が掲げる目標をクリアすることで、生徒に自信をつけさせようと考えたのだ。

1学年担任の清末莉央奈先生は、自分のクラスで目標学習時間を達成した生徒数を集計・開示するなど、学習状況調査を学習意欲の向上につなげることを心がけている。

「毎日、学習状況調査を確認して、学習時間が増えてきた生徒、教科バランスを意識した学習ができてきた生徒を褒めるのですが、生徒はとてうれしそうに顔を上げてくれます。ちょっとした頑張りや教師が認めることは、生徒のやる気を高めるのだと思います」

毎日の生徒の短いコメントの中に大切なサインが隠れていることがあると説明するのは、1学年副主任の泉信至先生だ。

「例えば、『昨日、家の壁をたたいた』と、一言だけ書いた生徒には、『何かあったの?』と声をかけます。そのように、生徒は自分の中で処理しきれない感情を、学習状況調査に書くことがあります。担任として、特に目を向けるべき生徒を、学習状況調査から見つけることができます」

学習状況調査で発見した注視すべき生徒のことは、学年団全体でも遅滞なく共有したいと、神坂先生は考えている。そのためにも、学年団で生徒のことを気軽に話せる雰囲気

をつくることを心がけている。

「報告・連絡・相談といった改まったものではなく、生徒に関する会話を楽しめる学年団でありたいと思っています。ただ、ざっくばらんに話せるようになるためには、会話することへの慣れが必要です。私や経験の豊富な泉先生が率先して、授業やホームルームで印象に残った生徒の言動、さらには自分の失敗談などを積極的に話すようにしています」

「1学年団の結束力は、他の学年団の注目を集めている」と、今年度、同校に赴任した1学年担任の井上貴博先生は語る。

「他学年の先生から感心した様子で、『1学年団は、重要な議題から軽い雑談まで、よく話をしていますね』と、言われたことがあります。私のような本校勤務歴の浅い教師にとって、日々の雑談は、週1回の正副担任会での情報共有と同じくらい、本校の実態を理解する機会になっています」

若手教師に学年主任としての思いを伝える

1学年団には若い教師も多い。そのため、神坂先生は、学年主任としての思いを伝えることを大切にしている。数学科の荻洋人先生は、神坂先生から「生徒が家庭学習の教科バランスを整えることに苦労しているので、数



学年団を訪ねて



1学年担任
清末莉央奈 きよすえ・りおな
教職歴4年。同校に赴任して3年目。
研修課・総務広報課。英語科。



1学年担任
荻洋人 おぎ・ひろと
教職歴7年。同校に赴任して3年目。
教務課。数学科。



1学年担任
原田貴史 はらだ・たかし
教職歴7年。同校に赴任して7年目。
生徒育成課。保健体育科。



1学年担任
井上貴博 いのうえ・たかひろ
教職歴22年。同校に赴任して1年目。
教務課。数学科。



1学年副主任
泉 信至 いずみ・しんじ
教職歴24年。同校に赴任して8年目。
進路指導課。地歴公民科。



1学年主任
神坂貞和 かみさか・さだかず
教職歴16年。同校に赴任して7年目。
国語科。

学の課題を減らしてもらえないか」と相談されたことがあるという。

「複数の生徒の学習状況調査に『数学の課題が多くて大変』と書いてあったと、神坂先生から声をかけられました。学年団として生徒の学習上の教科バランスを重視していることは、正副担任会での神坂先生の話で理解していたつもりでしたが、担当教科の課題を減らすという一歩が踏み出せていませんでした。しかし、『私たちは、どんな生徒を育てたいのだろう』と神坂先生に問われ、考えるうちに、指導が不十分なのではないかといった教師の不安感から、生徒に課題を与え続けるのはエゴだと気づき、課題や授業のあり方を変えようと決意しました。今は、教師として新たな挑戦をしている気持ちです」(荻先生)

「実は、荻先生と話をする前に、同じ数学科の井上先生に相談したのです。井上先生からは、『荻先生なりに生徒のことを思っている懸命やっているので、その点を酌んで言葉をかけてあげてくださいね』と言われました。その言葉があったから、『課題を減らしてください』と言う前に、指導の本質を荻先生と一緒に考えることができました」(神坂先生)

1学年担任の原田貴史先生は、神坂先生が保護者面談に同席した時のことを振り返る。「高校生活に慣れることができずに苦労し

ている生徒と保護者を迎えて面談をした時、私は『授業に出ることが大事だよ』と、生徒に言いました。すると、同席してくれた神坂先生は、『原田先生の言う通りだよ。でも今は、授業のことはあまり気にしなくていい。学校に来るだけでも十分だよ』と、生徒に寄り添った言葉をかけてくれました。経験の豊富さと懐の深さを感じました」

2学期も残りわずかとなる中、生徒の学習時間は着実に増えている。2年次も学習状況調査は続けるが、学年としての目標学習時間は示さない予定だ。他律から自律へ——神坂学年団の指導は絶えず進化している。

* 学年団 輝きのポイント *

- * 指導コンセプトに基づいて生活・学習面の目標や達成すべき学習時間を設定し、学習状況調査を活用して指導の足並みをそろえた
- * 日頃から生徒に関する会話を楽しむなど、対話を通じて学年団の結束力を高め、問題解決にあたる

教師・生徒の健康管理

解説者



日本女子大学
教職教育開発センター
教授 坂田 仰

大阪府の公立高校に勤務後、東
京大学大学院法学政治学研究所
公法専攻博士課程単位取得退
学。1996年、日本女子大学に
赴任。専門は、憲法学、公教育
制度論。9月に『新訂第4版
図解・表解教育法規』（共著、
教育開発研究所）を出版。

学校で起こり得る危機に対し、どのような備えをしておくべきか。事故や災害などが発生したら、被害を最小限にとどめるためにどう対応すればいいのか。学校の危機管理について研究する坂田仰教授が解説する本コーナー。第5回は、教師・生徒の健康管理について解説する。

使用者はもちろん、労働者にも自身の健康と安全を守る義務がある

公立学校と私立学校では法律の根拠は異なりますが、労働者（教師）の健康管理に関する考え方は同じで、使用者（設置者・管理職）には、労働者に対する「安全配慮義務」があります。労働者が、生命や身体等の安全を確保しながら労働できるように、使用者に対して必要な配慮を義務づけるもので、労働安全衛生法では、主に次の4項目を示しています。

① **適正労働条件措置義務** 過重労働が原因で心身の健康を害さないよう、勤務時間や休憩時間、休日、休憩場所、人員配置などによる労働条件を適正に確保する義務。

② **健康管理義務** 必要に応じて健康診断やメンタルヘルス、心身の状態の把握など、健康管理に努める義務。

③ **適正労働義務** 労働者の病歴、持病、体調などを考慮した業務に配置する義務。①適正労働条件措置義務は、労働者全体の措置に対し、③は労働者一人ひとりの状況に応じた適正な措置となる。

④ **看護・治療義務** 病気やけがをした場合、適切な看護や治療を行う義務。身体だけでなく、心の病気も含まれる。

一方、労働者には、「自己保健・自己安全」の義務があります。労働者本人が自分の健康管理や安全確保に注意を払いながら業務にあたるのが求められ、使用者が講じる健康・安全への措置を守る義務もあります。つまり、使用者・労働者の双方が配慮して、

心身の健康と安全の確保に向けて

- ✓ 使用者には「安全配慮義務」が、労働者には「自己保健・自己安全」の義務があり、使用者・労働者の双方から、労働者の健康と安全を確保する。
- ✓ 教師が休養を適切に取れるよう、業務削減の工夫や職場の雰囲気づくりに努める。
- ✓ 生徒の日々の健康観察では、体調の変化だけでなく、言動の変化にも目を配る。

図 公立学校の教師の勤務時間のガイドライン

- 超過勤務の上限の目安
 - 1 か月間の時間外在校等時間 **45 時間以内**
 - 1 年間の時間外在校等時間 **360 時間以内**
 - 勤務時間の考え方
 - 「超勤4項目」（下記参照）以外の**自主的・自発的な勤務も含め**、外形的に把握することができる**在校時間**（自発的に行う自己研鑽等の時間は、自己申告に基づき除く）。
 - **職務として参加する研修や児童生徒の引率等の職務に従事する**ような、外形的に把握できる**校外での勤務時間**（休憩時間を除く）。
- *「超勤4項目」は、時間外勤務を命じることができる業務。
- 1 校外実習その他生徒の実習に関する業務
 - 2 修学旅行その他学校の行事に関する業務
 - 3 職員会議に関する業務
 - 4 非常災害の場合、児童または生徒の指導に関し、緊急の措置を必要とする場合、その他やむを得ない場合に必要業務

2019年、「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」の改正により、上記のガイドラインが示された。

※文部科学省「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」（2019年1月）を基に編集部で作成。

労働者の健康と安全を守るといのが、基本的な考え方です。

勤務時間の客観的な把握が義務化 残業時間の上限も設定される

安全配慮義務の中で、勤務時間に関する環境改善が急速に進められています。2019年4月、労働安全衛生法が改正され、勤務時間の客観的な把握が義務化されました。把握の方法は、タイムカード等による出退勤時刻

の記録や、パソコン等の電子機器の使用時間の記録などで、学校にもその順守が促されました。20年9月の文部科学省の調査では、客観的な把握を実施する自治体の割合が、都道府県は91・5%、政令指定都市は85%と、前年度から大幅に伸びています（*1）。しかし、表計算ソフトに出退勤時刻を入力するなど、自己申告による把握はまだ行われていません。勤務時間の客観的な把握は、法律で義務づけられているので、未実施であれば早急な対応が必要です。

公立学校の教師の勤務時間に関するガイドライン（*2）も作成され、時間外在校等時間は、1か月間では45時間以内、1年間では360時間以内と示されました。そして、いわゆる「超勤4項目」以外の自主的・自発的な勤務や、校外での勤務でも、職務として参加する研修や生徒の引率等を行う時間は、勤務時間とされることになりました（図）。

ただ、残業時間の上限を設けても、業務量自体が減らなければ、業務の持ち帰りにつながってしまいます。また、部活動や課外活動など、本人の希望で行う業務によって超過勤務となつている場合もあるでしょう。部活動に週2日以上以上の休養日が推奨されているように、業務量を減らす工夫や、休みやすい環境づくりをいま一度検討するとともに、使用者・

労働者がともに働き方を見直し、善意や熱意による働き過ぎを防ぐことが大切です。

生徒の健康観察では、言動の変化の見取りから、心の不調の早期発見を

生徒の健康管理において留意したいのは、健康観察です。例えば、熱中症は毎年どこかの学校で起きています。生徒に無理な運動をさせないのももちろん、熱中症測定器の設置も検討すべきでしょう。

コロナ禍の今は、毎朝生徒の体温や体調を確認する学校もあると思いますが、心の不調にも注意を払うことが重要です。文部科学省の調査では、20年度、自殺した児童生徒の数は415人で、調査開始以降、最多でした（*3）。コロナ禍によって生活が大きく変化し、人と人との距離が広がる中、生徒は周りに不安や悩みを相談できず、1人で抱え込んでいく可能性があることを教師は心に留めて、生徒と接することが望まれます。

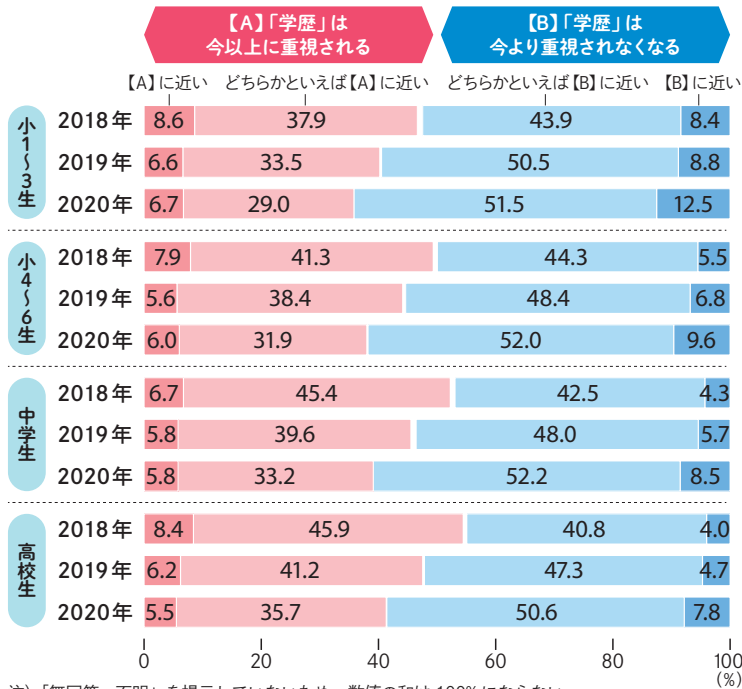
大人も子どもも、周囲が心の不調をつかむことは容易ではありません。体調の変化だけでなく、言動の変化も注意深く見取るなどして、異変の早期発見に努めるとともに、産業医やスクールカウンセラーと連携して心のケアを十分に行うことが大切です。

*1 文部科学省「令和2年度 教育委員会における学校の働き方改革のための取組状況調査」。2019年度は、都道府県66%、政令指定都市75%だった。なお、市区町村は2019年度47.4%、2020年度71.3%だった。 *2 文部科学省「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」（2019年1月）。 *3 文部科学省「令和2年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」。自殺者数は、小・中学校・高校から報告のあった人数。

保護者の「学歴」に対する考えに変化が。 思考力などの習得を望む傾向に

ピックアップデータ 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所
「子どもの生活と学びに関する親子調査」(*)

データ1 「学歴」に対する保護者の考え方



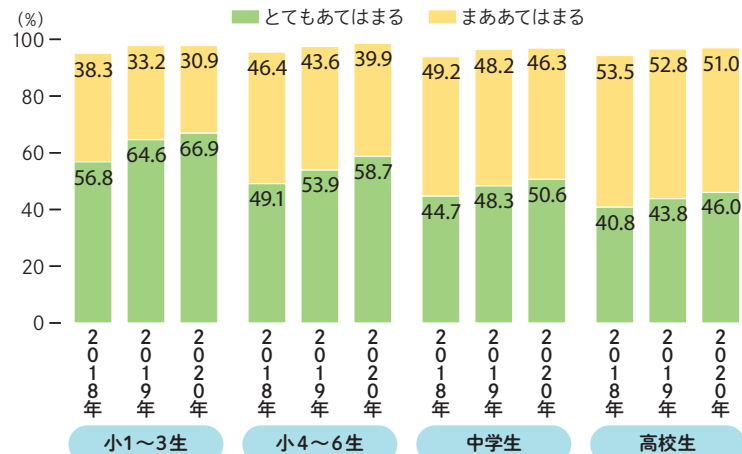
新学習指導要領の実施や教育のICT化など、学校教育が変革期にある中で、子どもの教育に第一義的責任を有する保護者は、教育にどのような意識を持っているのか。東京大学とベネッセによる、同一の子どもと保護者に継続して実施している調査の結果をしてみる。

まず着目したのは、保護者の「学歴」に対する認識の変化だ。「『学歴』は今以上に重視される」と「『学歴』は今より重視されなくなる」のどちらに考えが近いか尋ねた項目で、「『学歴』は今より重視されなくなる」に「どちらかといえば近い」または「近い」と回答した割合が、すべての学齢で年々高まっている(データ1)。2019年以降の調査では、「『学歴』は今より重視されなくなる」の割合が、すべての学齢で5割を超える結果となった。一方、図示していないが、「できるだけよい大学に入れるように成績を上げてほしい」の肯定率は、2019年から2020年にかけて、すべての学齢で低下していた。

また、保護者が子どもに身につけさせたい資質・能力にも変化が見られる。「知識以外の多様な力(思考力・判断力・表現力など)を身につけさせたい」に「とてもあてはまる」と回答した保護者の割合は、すべての学齢で年々増加しており、保護者が知識以外の多様な力を重視する傾向が強まっている状況が見て取れる(データ2)。

コロナ禍は、これからの時代が予測困難であることを実感させた。それは、保護者の子どもの教育への意識にも影響を与えたのではないだろうか。

データ2 「知識以外の多様な力(思考力・判断力・表現力など)を身につけさせたい」の保護者の肯定率



* 東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所が共同で立ち上げた「子どもの生活と学び」研究プロジェクトによる調査。2015年から毎年、小学1年生から高校3年生までの親子約2万組を調査している。

For Teacher Section

教師個々の教科指導・進路指導に
役立つ事例や情報を、
先生方の思いを乗せてお届けする

P.40

お勧めの分掌 ▶

教務担当

担任

発問・課題設定をキーに見る

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

教科の見方・考え方を働かせる
問いや課題を通じて学びが深まる授業に迫る

美術 愛媛県立三島高校 うつみ あつひこ 内海篤彦

P.40

自分なりの美しさを探し、言語化する活動で、
自分だけの価値を創り出す

国語 大分県立大分舞鶴高校 佐藤秀信

P.44

素材文を読み解くオーセンティックな問いで、
人間のあり方・生き方に迫る

P.48

お勧めの分掌 ▶

進路担当

担任



SDGsの
視点で見る
大学の学び

持続可能な社会の実現に向けた
問題解決に取り組む大学の研究とは？

目標4 ● 質の高い教育をみんなに

山梨大学

P.48

教育学部 幼小発達教育コース 高橋英児研究室

目標14 ● 海の豊かさを守ろう

北海道大学

P.50

水産学部 海洋生物科学科 生産生態学研究室

P.52

お勧めの分掌 ▶

進路担当

担任

これからの
進路指導のための
世の中トレンド解説

生徒の将来に影響する社会の動きが「学ぶ」「働く」「暮らす」の視点で分かる

トレンド・ワード 心理的安全性

P.56

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

担任

誌上で見学  学びのnext

これから求められる学びとは？
一歩先を行く授業を実践者が紹介

クロスカリキュラム

山梨県立白根高校

生徒が人生を切り拓く上で重要な共通のテーマを
全教科・科目で設定し、授業を展開

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

美術

自分なりの美しさを探し、言語化する活動で、
自分だけの価値を創り出す

愛媛県立三島高校

うつみ あつひこ
内海篤彦

14:45 チョウのカードを制作



主

内海先生は、「世界のすべてをチョウに変える装置を作って、自分のチョウを見つけよう」と、本時の活動について説明。生徒は、画用紙にチョウを描き、羽の部分を持ち抜いたカードを制作した。タブレット端末でチョウの画像を検索し、それを参考にしながら描く生徒もいた。

本時のキー課題

15:10 美しいと感じたチョウの姿を撮影



主

対

生徒は、自分が最も美しいと感じたチョウの姿をタブレット端末で撮影。その際、役割分担をするなど、協力して撮影した。撮影後、自分が見つけたチョウについての説明をワークシートに記入。撮影対象を観察し、造形要素の素材などを確認しながら、自分の感覚を言語化していった。

本時の概要

〔対象／教科／科目〕2年生／芸術／美術Ⅱ
〔分野・単元〕鑑賞（本時は、全2時間のうちの2時間目。P.43に単元の指導計画を掲載）
〔育成を目指す資質・能力〕思考力、表現力、多様性
〔学習内容〕チョウの羽をかたどった穴を開けたカードを制作した後、それを使って、校内の様々な造形の要素から、自分が最も美しいと感じるチョウを探る。自分が美しいと感じた点について造形の要素などの根拠を示しながらワークシートにまとめ、その内容をグループのメンバーと共有した。

主 主体的な学び
対 対話的な学び
深 深い学び

うつみ・あつひこ 教職歴17年。同校に赴任して9年目。芸術科主任。公益財団法人電通育英会「リーダー育英塾」への参加や他校の研究授業などを通じて、高校の美術教育の果たす役割について考えを深め、現在の教育観、授業観を確立。

学校概要

◎校訓は「学び 鍛えよ 歴史を刻んだくすの木とともに」。普通科6クラス、商業科1クラスを擁し、時代の流れを見据えた教育活動を展開。旧制中学校の流れをくむ伝統校として東予地区の人材育成に尽力し、卒業生総数は3万人を超える。2021年にノーベル物理学賞を受賞した真鍋淑郎氏の母校。

◎設立 1923（大正12）年

◎形態 全日制／普通科・商業科／共学

◎生徒数 1学年約250人

◎2021年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、北海道大、横浜国立大、大阪大、岡山大、山口大、徳島大、香川大、愛媛大、高知大などに48人が合格。私立大は、同志社大、立命館大、龍谷大、近畿大、関西学院大、松山大などに延べ214人が合格。



15:05 自分だけのチョウを探す



主

「美しいと感じたり、心が動いたりするものを探して、5分後に最もよいと思ったものを1つ選んで戻ってきましょう」と内海先生から指示を受けて、生徒は活動を開始。校内を歩いて、地面や空、窓、木など、思い思いにカードをかざし、自分が最も美しいと感じるチョウになるものを探した。

15:00 本時のねらいを説明



主

生徒が制作したカードとタブレット端末を持って教室の外に出ると、内海先生は、モニターに「美しいものがあるのではなく、美しいと感じる心がある」と映写。「この意味が分かりますか」と問いかけ、少し間を置いてから、「自分が感じる美しさを見つける」という本時のねらいを説明した。

15:32 美しいと感じた点を発表し合う



主

対

深

自分が美しいと感じた点について、「大小の多様な石の不規則な模様が美しいと感じた」などと、グループ内で発表し合った。内海先生は、「見方を変えると、世界の見え方が変わりますね」と伝え、本時の活動で気づいたことをワークシートに記入する宿題を課した。

15:25 ワークシートへの記入



深

教室に戻り、ワークシートへの記入を続けた。内海先生は、「イラストや記号を使ってもよいので、相手に伝わるように書いてください」とアドバイス。さらに、「できるだけ具体的に色や素材を表現しましょう。ザラザラなど、擬音を使うのもよいですね」と、言語化のヒントを示した。

●私が目指す授業

「造形的な見方・考え方」を通じて、日常を捉える体験を積み

以前の私には、「美術の授業は、生徒にとって癒やしや気分転換の時間だ」と、心のどこかで思っていたところがありました。生徒に育成する資質・能力はあまり意識せず、授業では、絵画や彫刻などの作品制作ばかりを行っていました。生徒は楽しそうでしたが、「活動あって学びなし」の状態でした。しかし、他校の研究授業や外部研修に参加する中で、明確な目標を持って授業をデザインし、教師がファシリテーターとして生徒に学びを促すことで、美術の授業でも多様な資質・能力を育てるのだと理解していきました。

現在は、生徒が他者や世界と向き合う中で、自己理解を深め、自分なりの意味や価値を創り出す体験ができる授業づくりを目指しています。どのような題材でも、個人で考えた後、生徒同士で対話をして考えを深め、再び個人で自己の気づきを振り返るといった授業展開にしています。

芸術とは、自分なりの見方・考え方を通して、私たちが生きる物理的

VIEWn-expressでは、
本時の授業の様子を
ダイジェスト動画で紹介！
< 12月21日公開予定 >

VIEW n-express 検索



増え、質も向上しています。美術の授業で培った力が、美術以外の学びも支え、多様な資質・能力を育んでいると確信しています。

授業で美術の面白さに目覚め、私が顧問を務める美術部に入部したり、美術系大学を志望したりする生徒が増えていることも、美術の担当教師としてうれしい限りです。

学習評価については、ワークシートを基に言語化のプロセスを確認するなど、形成的評価を重視しています。ただ、成果物としての作品をどのように評価するか、生徒間の言語能力の差をどう判断するかといった課題が残っています。そうした課題を踏まえながら、生徒一人ひとりに寄り添い、思考力や表現力を高めていく指導と評価をこれからも追究していきます。

単元の指導計画

【教科・科目】芸術・美術Ⅱ 【分野・単元】鑑賞 【テーマ・作品】「自分」をつくりだす鑑賞 【設定時数】全2時間（本時は2時間目） 【単元目標】「造形の要素」を根拠として生徒自身が「自分の見方・考え方・答え」を獲得し、自己理解及び他者理解を深める。

時数	学習内容	身につけさせたい資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	<p>「どういう状況？どんな気持ち？美術作品から物語を読み取ろう～自己理解、他者理解を深めるための対話型鑑賞～」</p> <p>※〈表現：絵画・彫刻〉絵で伝えよう～記号を用いた表現の基本・実践～の次に実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 美術作品を鑑賞し、解釈の根拠を造形的な特徴（事実）と結びつけて言語化できている。 他者の視点を理解しようとしている。 <p>【思考力、表現力、多様性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①多様な解釈ができる美術作品（本時では、メッサーシュミット「性格表現の頭像」の写真）を用いて、「どういう状況？どんな気持ち？」を直感（いわゆる、森の視点）で捉える。 ②①で捉えた直感を、客観的な細部の事実（いわゆる、木の視点）と関連づけながら細かく解釈する。 ③グループのメンバーと、互いの解釈を共有。それぞれが根拠とした事実を確認し合い、視点を交換しながら、相互理解を深める。 ④「同じものを見ている、同じものが見えているとは限らない」という事実を確認した後、自分の視点を相対化し、メタ認知する。 	<p>【主体的な学び】生徒が関心を持ちそうな美術作品を題材に選ぶ。</p> <p>【対話的な学び】他者に伝えたい自分の解釈をまとめる個人ワークを行った上で、他者との対話を行う。1つの事実からも様々な解釈が生まれることを前提に対話の環境を整える。</p> <p>【深い学び】「直感→解釈」の思考の流れだけでなく、「解釈→直感」のサイクルを回せるような声かけをする。</p>	<p>解釈の根拠を造形的な特徴（事実）と結びつけて言語化する、他者の物語を理解しようとする、他者の視点を共有しようとするといった目標と、ワークシートに記述された生徒の思考の流れを照らし合わせて評価</p>
2	<p>「自分のチョウを見つけよう～造形的な見方・考え方で世界を見てみよう～」</p> <p>※〈表現：絵画・彫刻〉生き物を空想して表す～空想むし学会への報告～の間に実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 造形的な見方・考え方で世界を見ようとしている。 自身の判断の根拠を造形的な特徴（事実）と結びつけて言語化できている。 他者の視点を理解しようとしている。 <p>【思考力、表現力、多様性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①造形的な見方・考え方を促すツールとして、チョウの羽をかたどった穴を開けたカードを制作する。 ②校内を歩き、①のカードを使って、自分が美しいと感じる「造形の要素」を探し、風景を羽に見立てた自分のチョウを見つける。 ③自分が最も美しいと感じたチョウの姿をタブレット端末で撮影する。 ④撮影したチョウについて、自分が美しいと感じた点を、「造形の要素」などの根拠とともに、言語やイラスト、記号などを用いてワークシートに整理する。 ⑤グループのメンバーと、各自が見つけたチョウを共有した後、それぞれのチョウの風景を確認する。 ⑥自分と他者が感じる美しさの違いや、「同じものを見ている、同じものが見えているとは限らない」という事実を確認し、それらの気づきを生活の中でどう生かしていくのかを考える。 	<p>【主体的な学び】自己決定の機会を多く設け、学んだことを言語化させ、自身の学びを自覚させる。</p> <p>【対話的な学び】他者に伝えたい自分の解釈をまとめる個人ワークを行った上で、他者との対話を行う。1つの事実からも様々な解釈が生まれることを前提に対話の環境を整える。</p> <p>【深い学び】他者との違いをエネルギーとし、「直感→解釈」の思考の流れだけでなく、「解釈→直感」のサイクルを回せるような声かけをする。</p>	<p>生徒が見つけた自分のチョウ（自分の見方）を、言語やイラスト、記号などで表現し、造形の要素などの根拠とともに整理したワークシートを基に評価</p>

※内海先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

国語

素材文を読み解くオーセンティックな問いで、
人間のあり方・生き方に迫る

大分県立大分舞鶴高校 佐藤秀信

10:30 本時の課題と活動手順を提示



生徒は予習として、前時にグループで行った素材文の読解を基に、本時の課題「杜甫が叔母の墓の銘文の言葉を『嗚呼、有唐義姑、京兆杜氏之墓』としたのはなぜか?」を考えた上で、本時に臨んだ。本時では、その問いの答えをワークシートに書かせてから、佐藤先生は活動の手順を説明。

本時のキー課題

10:50 A～Cの担当者が集まり、考えを共有



【ジグソー活動】 担当する問いが異なる生徒が各問い1～2人ずつ集まって新たなグループを組み、担当する問いに対する考えを共有した。佐藤先生は、机間指導でワークシートの記述内容を確認しながら、意見を持っている生徒や発言をためらっている生徒に声をかけ、発言を促した。

本時の概要

【対象／教科／科目】 3年生／国語／古典B 【分野・単元】 漢文・『杜詩詳註』（2019年度センター試験・本試験の第4問。本時は全2時間のうちの2時間目。P.47に指導計画を掲載）
【育成を目指す資質・能力】 思考力、判断力、表現力、協働性
【学習内容】 漢文の課題に知識構成型ジグソー法（*1）で取り組んだ。解答のヒントとなる3つの問いを分担し、同じ問いの担当者から成るグループで議論（エキスパート活動）した後、異なる問いの担当者から成るグループで各問いに対する考えを出し合い、問題の解答を考え（ジグソー活動）、それをクラス全体で共有。

主 主体的な学び
対 対話的な学び
深 深い学び

さとう・ひでのぶ 教職歴 35年。同校に赴任して1年目。指導教諭。国語科。外部研修に参加し、主体的・対話的で深い学びの効果を実感。大分県教育委員会「深い学び研究会」への参加をきっかけに、知識構成型ジグソー法を授業に取り入れ始めた。

学校概要

◎校是は「しまれ、がんばれ、ねばれ、おしきれ」。県下唯一の理数科を設置。文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール」に2005年度から継続して指定を受けており、現在4期目。学びのSTEAM化にも学校全体で取り組んでいる。

◎設立 1951（昭和26）年

◎形態 全日制／普通科・理数科／共学

◎生徒数 1学年320人

◎2021年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、東京大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、広島大、九州大、熊本大、大分大、宮崎大、大分県立看護大などに240人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、明治大、早稲田大、同志社大、立命館大、福岡大などに延べ351人が合格。



*1 ジグソーパズルを解くように、協力して全体像を浮かび上がらせる協調学習法の1つ。ある課題について、複数の視点で書かれた資料を読む「エキスパート活動」、そこで得た知識を交換し、考えを深めていく「ジグソー活動」、全体でグループの意見を交換する「クロストーク活動」の3つの活動から成る。

10:36 A～Cの各担当に分かれて議論

主
対

【エキスパート活動】担当する問いが同じ生徒で、「自分の子を犠牲にして杜甫の看病をしたことが『義』なのでは?」「途中に出てくる『列女伝』の内容は、叔母がしたことと似ていない?」などと、活発に議論。佐藤先生は、各グループを回り、「この後、他者に説明するための解答を作ろう」と指示した。

10:34 A～Cの3つの問いを提示



佐藤先生は、課題に取り組むためのヒントとなるA～Cの3つの問いを提示(P.46 図1)。生徒はいずれかの問いを担当し、同じ問いを担当する生徒4人でグループを組み、答えを話し合った。担当している問いが何かひと目で分かるよう、Aは青、Bは黄、Cはピンクのワークシートに色分けした。

本時のキー課題

11:12 各グループの解答を共有

対
深

【クロストーク活動】全グループが模造紙を黒板に掲示し、クラス全体で共有した。生徒は、ほかのグループの解答を見て思ったことを、グループ内で言い合っていた。最後に、再度個人で課題の解答を考えたが、授業時間内に終わらなかったため、放課後までに考えて提出させることにした。

10:56 グループで解答をまとめる

主
対
深

【ジグソー活動】「叔母が自分の子を犠牲にしたのは、本当に『義』と言えるのかな」と、素材文に対する批判的な意見も出るなど、生徒は様々な意見に触れながら、グループで課題の解答を練り上げていった。解答がまとまったグループは、短冊状の模造紙に解答を記入した。

●私が目指す授業

●学びが生徒の人生に結びつく
視点で、授業をデザイン

私は長らく、「分かる授業」を心がけてきました。生徒が授業の内容を理解し、定期考査や模擬試験の得点を上げ、志望校に合格することを目指す授業です。生徒の授業満足度は高かったのですが、今考えると、知識や解法のテクニックを教え込むだけの授業だったように思います。

どのような授業がよい授業なのかを改めて考えるきっかけとなったのは、新学習指導要領でした。育成を目指す資質・能力として示された思考力・判断力・表現力や学びに向かう力などを、私は生徒に育てているのかといった疑問を持ったのです。

そこで、大分県教育委員会主催の「深い学び研究会」(※2)に参加し、知識構成型ジグソー法を学びました。それを授業に取り入れる過程で、従来の私の指導には、なぜ、その教材を使うのか、授業での学びが生徒の生活や人生にどのように結びつくのかといった視点が十分ではなかったことに気づきました。

以降、授業ごとにねらいを明確に

*2 東京大学 CoREF が主催する知識構成型ジグソー法による授業研究会「新しい学びプロジェクト」の協力の下、2020年度まで実施。

図1 本時の問い

●本時の課題

杜甫が叔母の墓の銘文の言葉を『嗚呼、有唐義姑、京兆杜氏之墓』としたのはなぜか？

●エキスパート活動での問い

A ある人の問いかけに、杜甫が傍線部B「非敢当是也」と答えたのは、なぜか？

B 傍線部E「泉君有焉」とあるが、「有焉」と言えるのは、なぜか？

C 傍線部F「銘而不韻、蓋情至無文」とは、どういうことか。

A～Cの問いは、前時に取り組んだ演習問題と関連しており、前時の学習内容の理解が本時にもかかわる。

※佐藤先生提供資料を基に編集部で作成。

図2 生徒の本時の解答例

生徒①

活動前

恩のある叔母は唐の義のある存在であり、これがその墓であると示すため。

活動後

私情を絶った義のある叔母を「魯義姑」になぞらえて「有唐義姑」と表現し、単純な文で墓を建てるのは孝行ではなく、当然のことであると示し、また、韻を踏まなかったのは、感情があふれて形式的にする必要がなかったから。

生徒②

活動前

詩のリズムを整えたり、形を美しくしたりするために韻を踏むといった、うわべを飾ることはせず、自分の本心を叔母に伝えたかったから。

活動後

杜甫は、魯の女性のように義のある行動をした自分の叔母に報いているだけであり、叔母に対する感謝の思いを真つすく伝えるため、形式的に韻を踏む必要がないと考えたから。

※佐藤先生提供資料を基に編集部で作成。

し、生徒の協働性を重視する授業デザインを心がけています。

●私の発問・課題設定の観点

活動の手順や問いの工夫で、素材文の深い読解に導く

単元の基本的な流れは、次の通りです。教科書の素材文を2～5つの塊に分け、その塊ごとに問いを1つ設け、1コマ1問のペースで解答させていきます。最後に、単元全体にかかわる課題を出し、各問いの解答を統合しながら取り組み、読解を深めます。素材文は、大意をすくにつ

かませたい場合は2つ程度に大きく分け、じっくり取り組ませたい場合は細かく分けます。

授業ではまず、個人で問いについて考えさせた後、グループになって各自の考えを共有しながら、1つの解答を作成させます。それを踏まえて、再び個人で同じ問いについて考え、解答を作成。最後に、活動の過程を自己評価し、授業での学びや気づきをワークシートに書かせます。

問いは、「素材文の主題」「作者の問題提起」「主人公の心情」など、素材文についてのオーセンティックな内容にしています(図1)。人間

のあり方・生き方が凝縮された国語教材のよさを最大限に生かし、生徒に何を伝え、何を考えさせたいのか、ポイントを絞り込んでいます。

例えば、『平家物語』では、「武士の生き方とはどのようなものか」と問いかけています。すると、生徒は、「名譽を重んじる生き方」といった答えに加えて、「武士の生き方と部活動との共通点を見いだしていました。哲学者のエッセーの読解では、「人は一人では生きていけない」と、多くの生徒が書いていました。そのように、自身のあり方・生き方につながる問いかけをし、繰り返し考えさせること

で、社会で生きていくための広い視野をつかんでほしいと考えています。

本時で行った大学入試の過去問題の演習でも、授業デザインは同じです。過去問題の素材文からも学ぶべきものがあると考え、生徒が読解力や思考力、表現力を高められるような問いを出し、グループで解答を導く活動を行っています。

知識構成型ジグソー法を授業に取り入れて7年が経ちましたが、今も試行錯誤の連続です。初めの頃は、各グループが出した解答がほぼ同じで、生徒の視野を広げるに至らなかったことがよくありました。生徒を正解に導きたいと思うがあまり、ヒントとなる問いを具体的にしすぎたことが原因でした。今は、「なぜか」「どういうことか」など、あえて漠然とした問いにすることで、生徒から多様な意見が出るようにしています。

一方で、問いを具体的ににして、生徒が考えやすくなる場合もあります。本時の課題は、「杜甫は叔母にどのような思いを持っていたのか」と具体的な問いにし、杜甫の行動や発言から心情を読み解かせることで、正解にたどり着きやすくなると考えました。

質の高い問いを出し、解答のプロ

セスを明確にして、生徒が話しやすい環境を整えれば、教科・科目や生徒の学力の違いにかかわらず、生徒同士で考えを出し合い、自分で答えを導いていけると思っています。

● 成果と展望

生徒の解答の変容から
教育活動の成果を測る

活動の前後の解答を比較すると、活動後の方が、記入した文字の量が多く、文章も具体的で、素材文を深く読み込んでいることが分かります(図2)。協働学習を通じて様々な他者の考えに触れ、自身の考えを深めていくからでしょう。生徒の解答の変容は、問いの設定やグループ活動の進め方などが適切だったかを検証するデータとして、授業改善に生かしています。

定期考査では、大学入学共通テストと同じように、複数の文章・資料を読み比べて解答する問題を出しています。教科書の素材文と関連した初見の文章を出し、複合的に考えさせることで、授業の内容の理解度を測っています。

以前は、年度によって模擬試験の

結果にばらつきがありました。この数年は、2年次2月から大学入試までに偏差値が2ポイント程度上がるようになりました。毎時間問いに向き合い、自身の考えを表現することで、生徒の読解力や表現力が高まっていくのだと思います。

今後の課題は、生徒の主体性の喚起です。協働的な学びが活発に行われ、深い学びが実現しているという手応えはあるので、主体性が高まれば、そうした学びを授業外でも行うようになると考えるからです。国語で学んだ手法を、他教科・他科目の学習に応用する力を育むことも課題です。どちらの課題も、探究学習を充実させるためには取り組む必要があります。他教科・他科目と連携した授業を行い、生徒をさらに深い学びに導いていきたいと思っています。

VIEWn-expressでは、
本時の授業の様子を
ダイジェスト動画で紹介!
<12月24日公開予定>

VIEW n-express

検索



単元の指導計画

【教科・科目】国語・古典B 【分野・単元】漢文・問題演習 【テーマ・作品】『杜詩詳註』(2019年度センター試験・本試験の第4問) 【設定時数】2時間(本時は2時間目) 【単元目標】主人公の心情を読み取る。

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	問題の解答と素材文の読解	素材文全体を読解し、ストーリーを捉えることができる。 【知識、技能、協働性】	① 20分間で問題に解答させる。 ② 4人グループで素材文を読み解きながら、ストーリーを捉える。その際、問題の解答に言及してもよい。	【対話的な学び】 机間指導しながら、つまづいているグループにヒントを与えたり、意見を持っていそうな生徒に発言を促したりする。	行動の様子
2	杜甫が叔母の墓の銘文の言葉を、「嗚呼、有唐義姑、京兆杜氏之墓」とした理由	各挿話・思考等が心情に結びついて銘文となったことを表現できる。 【思考力、判断力、表現力、協働性】	[予習] 前時の学習内容を踏まえて、自分の解答を作成する。 ① 本時の授業の流れと、課題を確認する。 ② 課題を考えるためのヒントとなる3つの問いについて、同じ問いを担当する生徒4人で、エキスパート活動を行う。 ③ 各問いの担当者が集まったグループで課題の解答を考え(ジグソー活動)、クラス全体で共有する(クロストーク活動)。 ④ 本時の活動を踏まえて、自分の解答を作成する。	【主体的な学び】 エキスパート活動での内容を、他者に確実に伝えるよう促す。 【対話的な学び】 机間指導しながら、つまづいているグループにヒントを与えたり、意見を持っていそうな生徒に発言を促したりする。 【深い学び】 ・エキスパート活動の内容や、ほかのグループのまとめは、あくまでもヒントであり、それらを参考にして自分の考えをまとめるよう促す。 ・1つの根拠ではなく、全体を通して考えることで得られる複数の根拠を基に、本時の課題に取り組むよう促す。	<ul style="list-style-type: none"> 行動の様子 ワークシートの記入内容 振り返りシートの内容

※佐藤先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。



SDGsの
視点で見る
大学の学び



低学年次から、教育現場での 実習で「教育の今」を学ぶ

6つのコースと1つのプログラム（*1）が設置されている山梨大学教育学部では、教育への情熱と豊かな人間性を持ち、専門知識・技能を身につけた人材の育成を目指している。同学部幼小発達教育コース4年の窪田麗菜（れな）

私たちが紹介します



教育学部
幼小発達教育コース4年
窪田麗菜
くぼた・れな
山梨県立甲府南高等学校卒業。



教育学部
幼小発達教育コース4年
若林初夏
わかばやし・はな
静岡県立富士高等学校卒業。

多様な現場への訪問と実習から 得られた問題意識を研究につなげ、 よりよい教育の実現を目指す

山梨大学教育学部 幼小発達教育コース 高橋英児研究室

さんは、幼い親戚の子どもの面倒を見ることが好きで、子どもとかわる仕事を志望し、同コースを選んだ。

「幼稚園教諭と小学校教諭、2つの教員免許が取得できる点に魅力を感じ、本コースに入学しました」

1・2年次は、全学共通科目に加え、学部共通科目や教職系・教科系科目などの専門科目も学ぶ。学部の専門科目の中には、少人数グループワーク型基幹科目授業群が設置されている。例えば、1年次後期の「教育の現在」では、保育所や適応指導教室などを訪問した後、全コースの学生混合のグループで自分の気づきを話し合い、学校以外の場での教育の状況を理解する。

「家庭裁判所では、事件の審判だけでなく、犯罪を犯す恐れのある『虐待少年』の早期発見や支援をしていると聞き、学校以外の場で、子どもをどう

守り、育てるのかを学ぶことができました」（窪田さん）

また、全コースの学生が1年次から履修できる「社会参加実習（教育ボランティア）」や幼小発達教育コースの学生が1・2年次に履修する「継続観察実習」のように、低学年次から緩やかに教育現場にかかわりながら学ぶ実習系科目が設置されている（*2）。

同コース4年の若林初夏さんは、2〜4年次まで「社会参加実習」を履修し、甲府市内の公立小学校で学習支援のボランティア活動を行ってきた。

「実際に学校で活動し、業務の忙しさなど、教師の現実を知ることができました。また、不登校や発達障害などの課題を抱える子どもの状況を知り、教師として目指す教育は何か、深く考えるようになりました」（若林さん）
若林さんが2年次後期に履修した

「継続観察実習」では、半年間、隔週で同大学の附属幼稚園を訪問し、幼児の姿を観察した。

「観察後には毎回、保育者と話す機会があり、子どもの見取り方を具体的に学べました。その経験は、3年次の小学校での教育実習でも生かすことができました」（若林さん）

一人ひとりの多様性を認める 学校づくりを研究

3年次は、コース専門科目を中心に学び、後期には、複数の演習を履修して、4年次に所属する研究室を検討する。

窪田さんは、教育思想の研究を行う教授の演習も履修したが、実践的な研究をしたいと考え、教育方法を研究する高橋英児教授の研究室に入った。
「2年次にも高橋教授の授業を履修

目標の解説は
WebでCheck!



または、
HOME > 教育情報 > 高校向け >
コーナー別 記事一覧からお読み
いただけます。

<https://berd.benesse.jp>

* 1 幼小発達教育コース、障害児教育コース、言語教育コース、生活社会教育コース、科学教育コース、芸術身体教育コースの6つのコースと、山梨県小学校教員養成特別教育プログラム。 * 2 このほかに学部必修の実習系科目として、2年次の「介護等体験実習」「観察実習」と3年次の「教育実習」（前後期）がある。



写真1 10月に高橋英児研究室で行われた卒業論文の中間発表の様子。学生各々が、テーマに対する問題意識や章構成を発表し、テーマをどのように掘り下げていくか、その筋道を確認した。

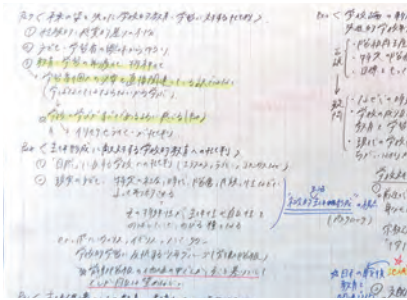


写真2 若林さんは、近代の学校の機能や役割、その根底にある子ども観に関する思想や議論を、文献を活用して整理している。ノートには、自分の意見や疑問も細かく書き込んでいる。

しましたが、その授業や演習も学生の対話を中心で、よりよい教育を主体的に考えさせる授業方針にも惹かれました」(窪田さん)

同研究室では、「目標4 質の高い教育をみんなに」の達成に向けて、子どもが「生きること」に夢と希望を持てるような教育の実現」を可能にする教育方法(教育課程、授業・学級指導、生活指導)の研究を行う。

個々の問題意識を大切に、高橋教授とゼミのメンバーが対話や討論をしながら、卒業論文のテーマを深めていく(写真1)。

窪田さんは、性の多様性に配慮した学校づくりをテーマに、卒業論文に取り組む(目標5)。性的マイノリティーの子どもが、現状の学校システムでは生きづらさを感じ、不登校になっている

ると知ったからだ。

「授業で性の多様性などを扱う学校は増えていますが、先行研究を調べても、システム自体を変えている学校は少ないです。例えば、性的マイノリティーの方は、学校のトイレを使う場合、男女どちらのトイレを使うか迷うことがあると思います。そこで、トイレの男女区別をなくしている海外の事例などを参考にしながら、多様性を認め合える学校づくりを研究し、ジェンダー平等の実現に貢献したいです」(窪田さん)

学校教育の変遷を整理し、 未来の教育のあり方を追究

若林さんも、高橋教授の研究室に入り、「学習指導要領に見られる能力観・

人間像と学校教育の役割」をテーマに研究中だ(写真2)。

「教育ボランティアや教育実習を経験し、一人ひとりの子どもの成長において必要な教育と、学習指導要領に示されている育成を目指す資質・能力との間にギャップを感じるがありました。目標4にもある、『教育の質の高さ』とは何なのかを考えたいと思いました」(若林さん)

学習指導要領には、社会の要請も込められているが、育成を目指す資質・能力がどのように変遷してきたのか、戦後の日本社会の転換期に焦点をあてて整理し、未来の子どもにどのような教育が必要なのか(目標16)、実習経験も踏まえて、考察していく予定だ。

「いざ学校で働き始めると、日々の授業で精いっぱいになってしまつて可能性も高いので、学生時代に、研究を通じて、自分がどのような教育を目指したいのか、教師としての土台を築きたいと考えています」(若林さん)

2人は、来年4月から小学校教師として教壇に立つ。

「子どもから信頼される教師になれるよう、頑張ります」(窪田さん)
「小学校の恩師にしてもらったように、子どもに寄り添える教師になりたいです」(若林さん)

学びとSDGs

経験に基づくと「問い」を設定し、対話で問題意識を掘り下げる



山梨大学大学院 総合研究部 教育学域 教育学系 (幼小発達教育) 教授
高橋英児
たかはし・えいじ

私の研究室では、学生自身が「なぜ、そのテーマを研究したいと思ったのか」、理由を深めることを重視しています。問題意識を掘り下げること、自分が大切にしたい価値観が明らかになり、自分が教育において社会とどうかかわっていきたいのか、見えてくるからです。1人で掘り下げることは難しいため、研究室では対話を重視し、仲間の意見を聞くことを通じて、多様な視点があることを学んでほしいと思っています。

やがて学生は、自分があたり前と思っていたことを疑い、それまでとは違う角度から調べるようになり、様々な事柄のつながりを見いだすようになります。例えば、小さな教室で起こっている出来事を、地域や社会の問題と結びつけて考えられるようになるでしょう。見方を変えることができたなら、課題を抱えた子どもと一緒に、その課題について考えたり、その子のつらさを分かち合ったりすることもできると思います。



SDGsの
視点で見る
大学の学び



自ら漁に出て集めたデータの解析を通じて、 資源量の変動の謎に迫り、 持続可能な漁のあり方を考える

北海道大学水産学部 海洋生物科学科 生産生態学研究室

練習船での実習の経験を基に、 関心のある分野を絞り込む

水産科学は、水産生物資源の適正な生産と有効利用を、科学的に追求する学問だ。北海道大学水産学部には、4

私たちが紹介します



北海道大学大学院 水産科
学院 資源生産学研究室
修士課程2年
水野悠
みずの ゆう



水産学部
海洋生物科学科4年
矢野聖人
やの・しょうと

富山県立富山中部高校卒業。

学科(*1)が設置されており、豊かな自然環境を生かした実習を行うなど、実習を重視した教育を実践している。

同大学院水産科学院修士課程2年の水野悠さんは、自分が興味を持っている食と生き物を結びつける研究をした」と考え、同学部に入學した。

「農学部と迷いましたが、磯でヤドカリの行動観察をするなど、生物調査などの実習が多い点に引かれました」

同大学では、入試区分にかかわらず、1年次は、総合教育部に所属し、共通カリキュラムの教養・基礎科目を履修。2年進級時に、各学部・学科に配属となる(*2)。同学部海洋生物科学科4年の矢野聖人さんは、魚の生態に興味を持ち、海洋生物科学科に進んだ。矢野さんが、授業で楽しみにしていたのは、同学部附属練習船「おしよる丸」での実習だ。2年次の「基礎乗船実習」

では、3泊4日の日程で練習船に乗り、海洋調査と船内生活の基本を学んだ。

「海洋観測やプランクトンの観察、

鳥類の目視観測など、様々な調査を行いました。中でも練習船で大きな網を引き、様々な魚を捕獲するトロール漁が印象に残りました。実習前は、研究対象が決まっていますでしたが、実習後は、私たちの生活に身近な魚にかかわる研究がしたいと考えるようになった」(矢野さん)

2年次には、「海洋学入門」「基礎水産資源学」などの基礎的な専門科目も学ぶ。水野さんは、「実験統計学」が卒業論文を書く際に役立つたという。「自分の仮説を立証するには、収集したデータから何を読み取り、どのようにそれを活用すればよいのか、同科目の授業の資料を見直しながら、論文を書き進めました」(水野さん)

毎月漁に出て魚を採取し、 収集したデータを解析

3年次からは、「海洋生態学」や「水産資源学」などの専門科目を学ぶ。12月には研究室への配属が決定し、4年次から卒業研究を進める。矢野さんは、2年次に高津哲也教授の「水産資源各論」を履修し、水産生物の資源量変動する要因の1つに、食性(*3)が関係していることを学び、その研究に興味を持ったため、高津教授らが率いる生産生態学研究室に入った。

同研究室では、「目標14 海の豊かさを守る」への貢献を目指し、北海道や東北地方の沿岸から沖合に生息する魚類の資源量変動しやすい仕組みの解明に取り組んでいる。学生一人ひとりが扱う魚種とテーマを決め、練習船や地元の漁船で漁を行い(写真)、

目標の解説は
WebでCheck!



または、
HOME > 教育情報 > 高校向け > コーナー別 記事一覧からお読みいただけます。
<https://berd.benesse.jp>

*1 海洋生物科学科、海洋資源科学科、増殖生命科学科、資源機能化学科。 *2 1年後期が終了した時に、学生の希望とそれまでの成績を加味して、4つの学科のいずれかに配属される。2年次まで札幌キャンパスで学び、3年次から函館キャンパスで学ぶ。 *3 生物における食べ物の傾向などの性質のこと。

写真

練習船に乗り、調査用着底トロールネットで採集した底生魚類を分類する様子。様々な研究室の学生が乗り込み、複数のポイントを回り、研究に必要な魚類の捕獲や海洋観測データの取得を協力して行う。



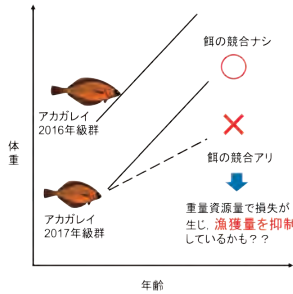
ホッケの食性を解明し、地元漁師の課題に貢献する

漁業組合で講演する機会が多い高津教授は、地元漁業への貢献も意識しながら研究を行っている（目標9）。矢野さんが現在研究しているのが、

持ち帰った標本の分類や計測、数値解析を行い、魚の食性に迫っていく。水野さんも魚類の食性研究を希望し、同研究室に入った。

「魚を解剖して何を食べているのかを調べています。消化後の状態からは食べ物の種類を特定できなかったのですが、図鑑で調べたり、先生に教えていただいたりして、徐々に判別ができるようになりました」（水野さん）

アカガレイの餌を巡る争いの有無を調べる意義



2016年生まれと17年生まれのアカガレイで餌を取り合っている場合、17年生まれは栄養状態が悪く、漁獲量が減っている可能性があるという。

ホッケの食性だ。函館市・南かやべは、日本有数の昆布の産地だが、近年、養殖昆布の種を浸み込ませた紐が、養殖用のロープから消失するという現象が相次いで発生。ホッケがその紐を引き抜いているのではないかという仮説の下、矢野さんは発生の原因を研究している。ホッケを捕り、食性を研究するとともに、本場にホッケが原因かを調べるために、水中カメラを設置し、その現象の撮影を試みている。

「食性研究から、ホッケは昆布の種紐ではなく、種紐に付着したヨコエビなどを食べていると推測できます。ホッケが好きな餌を別に仕かければ、被害を減らすことができるかもしれません」と予想しています（目標14）。まだ答えが明らかになっていない研究のため

め、研究方法も一から考えられ、やりがいを感じています」（矢野さん）

漁獲量の変動の理由を探り、安定的な資源管理につなげる

水野さんの研究テーマは、北海道の噴火湾におけるアカガレイの食性と栄養状態だ。噴火湾では、アカガレイの資源量は、卓越年級群（*4）の発生によって変動している。その原因を食性や栄養状態から推察して計画的な漁獲を行い、安定的な資源管理につなげたいと考えている（目標14）。

「数年に1回だった卓越年級群が、2016・17年は連続して起きました。そうなると餌の取り合いが起き、17年生まれのアカガレイが十分育たないのではないかと仮説を立て、調べています（図）。もしそうであれば、適正な大きさに育った16年生まれのアカガレイのみを漁獲できるように、網の目の大きさを工夫するなど、未来の資源を守りながら漁をする必要があります」

水野さんは卒業後、食品加工メーカーへの就職が決まっている。矢野さんは同大学院に進学予定だ。

「将来は、研究室での学びを生かせる、研究機関の研究職に就くことを志望しています」（矢野さん）

学びとSDGs

データから魚の習性を読み取り、持続可能な魚を考える



北海道大学大学院 水産科学研究院 資源生物学分野 教授 高津哲也 たかつ・てつや

本研究室では、魚類やイカ類を採集・飼育して、その資源量が変動する仕組みの解明に取り組んでいます。水産科学は、我が国がリードする学問ですが、ホッケやカレイなど、我々にとって身近な魚でも、資源量が変動する仕組みは明らかになっていません。そのため、魚に出て集めたデータの解析を行っています。

データには、生物が持つ本来の性質が表れると考えています。そこから生物の習性をくみ取り、持続可能な漁業のあり方を考えるのが研究の意義です。資源量を維持しながら漁師の収入を増やすには、いつ、どのような方法で漁を行った方がよいのかなど、地元の漁業に貢献する研究も行っています。

研究では、統計学などを用いて、論理的に考える力が求められます。データを収集し、結論を導くまで1人でやり抜く経験は、卒業後、どのような分野に進んだとしても、きつと役立つと思っています。

* 4 何らかの要因で、ある資源生物の生残率が極端に高い年級のこと。

トレンド・ワード

心理的安全性

生徒の学びや進路選択、そしてその後の人生に影響を与えるような革新的な技術や価値観を「社会のトレンド」として、「学ぶ」「働く」「暮らす」の観点から解説する本コーナー。今回は「心理的安全性」を取り上げる。変化が激しい現代社会では、多様な人々が知恵を出し合い、問題を解決することが求められている。そこで重要になるのが、誰もが率直に意見を交わし合える、「心理的安全性」の高い社会の実現だ。心理的安全性が高まると、学びや仕事、暮らしはどう変わるのか。そして、そうした社会ではどういった資質・能力が求められるのか。心理的安全性の専門家である石井遼介氏に話を聞いた。

解説者



株式会社 ZENTech（*）
 取締役、チーフサイエンティスト
石井遼介 いしいりょうすけ
 心理的安全性の計測尺度・組織診断サーベイを開発し、ビジネスやスポーツの領域で成果の出るチーム構築を推進。一般社団法人日本認知科学研究所理事等を兼任。著書に『心理的安全性のつくりかた』（日本能率協会マネジメントセンター）。

サマリー

対人関係によるリスクの小さい社会を実現することが、
 組織の生産性や個人の幸福感を高める

**組織内の心理的安全性によって
 人々の言動が大きく変化**

「心理的安全性」は、「サイコロジカル・セーフティ (psychological safety)」の日本語訳で、「組織の中で対人関係のリスクをとっても大丈夫だと、メンバー間に共有される信念」と定義される。1999年にハーバード大学のエイミー・C・エドモ

ンドソン教授が提唱した概念で、それに近い考え方は、60年代に経営学や組織論の領域に登場し、心理学の考え方を応用して発展してきた。

心理的安全性の高低により、組織内における人々の言動は大きく変化する。心理的安全性の高い組織では、誰もが安心して質問したり、違和感を指摘したりすることができる。すると、問題が改善されやすく、生産

性が高まる、メンバーが居心地のよさを感じるなど、多くの利点がある。

逆に、心理的安全性が低いと、メンバーは人間関係における不安を抱いたり、リスクを避けようとしたりして、組織の利益になるとも思っても積極的に行動できなかつたり、必要な質問ができなかつたりする。その結果、組織に様々な問題が起こると、心理的安全性を研究する石井遼介氏

は指摘する。

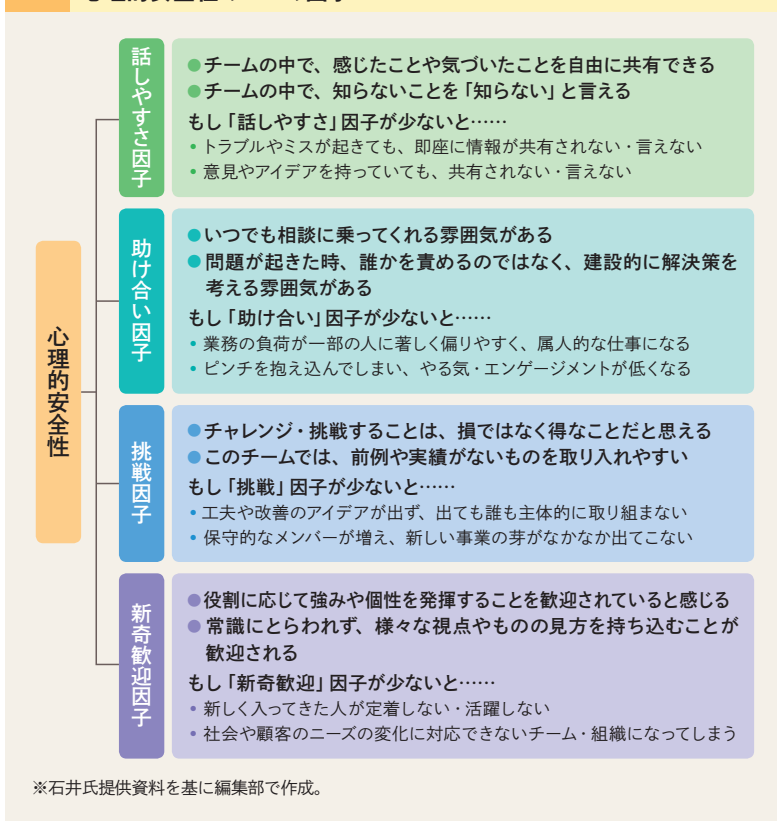
「企業の不祥事などでは、発覚まで誰も何も知らなかったというケースはほとんどありません。メンバーが問題に気づいても、組織内で浮いてしまつたり、責任を負わされたりすることを恐れて指摘できないなど、心理的安全性の低さが背景に潜んでいることがあります」

**変化が激しい現代社会では、
 多様な人々の協働が不可欠**

近年、心理的安全性が注目されるようになった背景には、社会の急速な変化により、多くの人が答えのな

* 1 株式会社 ZENTechについては、右記ウェブサイトをご覧ください。https://zentech.jp/

図1 心理的安全性の4つの因子



い課題に直面していることがある。
「穏やかで安定した社会では、答えを知る一部の人の従えば問題なく過ごせました。ところが、変化が激しく、未来の予測が難しい社会では、様々な考えや価値観を持つ人々が話し合い、知恵を出し合って前に進むことが求められます。地位や立場、年齢などに関係なく発言し、行動でき

るようにするためには、心理的安全性を高めることが不可欠なのです」
組織内の心理的安全性は、国民性や会社のカラーよりも、少人数の職場やチームごとに異なる傾向が見られるという。
「同じ企業内でも、各部、各課で人間関係や雰囲気は異なるため、心理的に安全であるという状態は様々

です。学校も、学級ごとに生徒の様子には異なるはずですが」
石井氏は、心理的安全性を「話しやすさ」「助け合い」「挑戦」「新奇歓迎」の4つの因子(図1)に分け、それらの因子が組織内に十分にある場合、心理的安全性は高まると考えている。逆に、組織のメンバーの言動に対して「罰」が与えられる場合は、心理的安全性は低くなる。よくれと思つて行動した結果、叱られたり、周囲から浮いてしまったりする「罰」を受けると、今後は黙っていろいろなと考えるからだ。
人間関係の悩みがなくなり、誰もが生きやすい社会に
組織内で4つの因子を育むためには、「この組織では、率直な意見交換を歓迎します」などと方針を表明し、メンバーと共有することが出発点となる。そして、自由な言動はリスクではないと、実際に感じられる環境を整えることが重要だ。
「例えば、上司に失敗を報告した場合、失敗の内容はともかく、報告自体は望ましい行動ですから、頭ごなしに叱責するのはよくありません。報告したことを認めて褒めた後、

失敗への対策を一緒に考えるなどの対応により、メンバーは次も安心して発言できます」
社会全体の心理的安全性が高まると、人々は「こんな行動をしたら、周囲から変に思われるのではないかな」などと思わず、自由に生きやすくなり、人間関係に起因する悩みも少なくなると考えられる。そのためには、一人ひとりが心理的安全性について理解し、行動を変えることで、組織内の人間関係や雰囲気をよりよくすることが重要だ。
「どうした社会が実現すれば、人々は保身や忖度(おもんばか)に走らずに、家族や地域、学校、企業、国など、自分が所属する組織をよりよくするための言動を積極的に行うようになるでしょう。その結果、組織としての成果や生産性、さらには個人の幸福感が高まりやすくなると考えています」
次ページからは、「学ぶ」「動く」「暮らす」の3つの切り口で、心理的安全性による社会や生活の変化を具体的に見ていく。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

学年団

担任

学ぶ

安心できる人間関係が、学びを深める

間違いを恐れずに学べれば、探究学習もより充実した学びに

教室での生徒の行動は、人間関係のリスクをどう捉えるかによって異なる。生徒がリスクを感じなければ、伸び伸びと過ごし、自分のよさを発揮しやすい。一方、リスクが高いと感じれば、同調圧力が高まり、失敗を恐れて消極的になったり、人間関係のトラブルが起きやすくなったりする。

教室における心理的安全性が生徒の学びに好影響を与えるケースは、大きく2つ考えられる。1つは、教科学習などの場面で、生徒が間違いを恐れずに積極的に学べるようになることだ。「間違えたら恥ずかしい」「こんな質問をしたら、馬鹿にされるのではないか」といった心配をせずに発言や質問をすることで、不明点はその場で解決し、学びを進めることができる。

もう1つは、探究学習などが充実

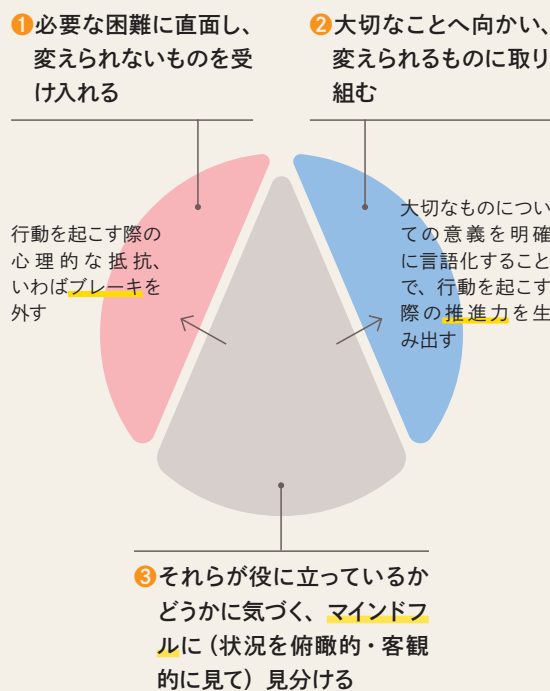
することだ。生徒が自由に考えを述べ合い、協働して探究を進められる場を積極的に設けることで、よい人間関係が構築され、相乗的に学びが深まっていく。

「異なる考えを持つ生徒たちが良好な人間関係を維持しながら一緒に探究を深めていく経験は、将来、プロジェクトチームなどで他者とかかわりながら仕事を進める時にも生きるでしょう」

生徒の行動変容を促して心理的安全性を高める

教室における心理的安全性を高めるためには、教師は、「間違えるのは恥ずかしいことではない」「他者の考えを尊重しよう」といったメッセージを繰り返し発信し、生徒と共有するとよい。また、面談など、生徒と1対1で向き合う場面では、生徒の話聞くことに注力し、安心して自分について話せる場であると実感させることも重要だ。

図2 リーダーシップとしての心理的柔軟性



※石井氏提供資料(*2)を基に編集部で作成。

生徒一人ひとりに、心理的安全性を高めていこうとする姿勢を育むことも大切になるだろう。

「心理的安全性の4つの因子を理解し、それぞれにひもづく行動を増やし、逆に望ましくない行動を減らすことが大切です。それにより、まず自分が変わり、そして周囲に好影響を及ぼすようになります」

そうした行動変容のために必要な資質・能力を、石井氏は「心理的柔軟なリーダーシップ」と名づけ、3つの要素に分けている(図2)。

「自分が変わられることと変えら

れないことを見極め、変えられることに取り組み、変えられないことを受け入れるように努める態度を育むことで、心理的安全性を高めるリーダーシップがより発揮されるようになるでしょう」

心理的安全性を高めることは、教室と同じく、職員室にも必要だ。

「役職や立場、年齢などに関係なく、率直に意見を交わし合える環境が職員室にあれば、問題が発見されやすくなり、教育活動の改善が進んだり、教師が個性を発揮して活躍したりするようになります」

* 2 石井氏が、次の資料を基に作図した。[1] Hayes, S. C., Strosahl, K. D., Wilson, K. G. (2009). *Acceptance and commitment therapy*. Washington, DC : American Psychological Association. [2] Harris, R. (2019). *ACT made simple: An easy-to-read primer on acceptance and commitment therapy*. New Harbinger Publications.

図3 心理的安全性と基準の関係性

		基準/Standard	
		低い	高い
心理的安全性	高い	ヌルい職場 コンフォートゾーン 仕事の充実感はない	学習する職場 学習して成長する職場、健全な衝突と高いパフォーマンス
	低い	サムい職場 余計なことをせず、自分の身を守る	キツイ職場 不安と罰によるコントロール

※石井氏提供資料（*3）を基に編集部で作成。

働く

個人と組織がともに成長する好循環が生まれる

社会的にコンプライアンス意識が高まり、企業の法令違反やハラスメントなどに対する人々の目は厳しくなっている。企業様々な不祥事が報道され、中には企業経営を揺るがす問題に発展するケースも少なくない。そうした状況を受け、企業では、社員が多様な視点から問題を指摘し

合える風土づくりが、危機管理の重要な課題の1つとなっている。

「社員が問題に気づいても、『上司が気づいているかもしれない』『解決する役割を押しつけられるのでは』などの理由から見過ごされ、不祥事に発展する場合があります。心理的安全性が高く、風通しのよい職場では、一人ひとりの問題意識がすぐに共有されて、問題が小さいうちに解決されやすくなります」

また、少子高齢化による労働力人口の減少への対応や、イノベーション創出への期待があり、年齢や性別、国籍などにとらわれずに多様な人材を生かし、個々の能力が最大限に発揮される機会を提供するダイバーシティ経営も重視されているが、それでも、心理的安全性の高い環境は欠かせない。

「組織内に多様な人材がそろっていても、少数派の立場にいる人々の意見が尊重されない環境では、新た

な発想は生まれにくいでしょう。逆に、すべての社員が公平に意見を言い合える環境では、個々の力がかけ算のように増幅されて、新たな価値が生み出されやすくなります」

心理的安全性の高い職場は、社員の居心地がよいためではない。目標の基準を適切に設定することで、社

暮らす

家庭や地域の人間関係が健全な生活を支える

家庭や地域においても、心理的安全性が高まることで、人々はより自分らしく生きられるようになると考えられる。家庭では、夫婦や親子が日頃から考えや悩みを話しやすい関係にあると、家庭内外でのトラブルを未然に防ぎやすくなる。

「例えば、子どものいじめの問題は、子どもが保護者に相談できずに、問題が大きくなってから発覚するところが少なくありません。夫婦間も、何でも相談し合える関係であれば、1人で悩みを抱えずに済むなど、健

員は前向きな姿勢で学び続けるとともに、健全な関係で協働することを通じて、個人と組織がともに成長していく好循環が生み出されやすくなる(図3)。企業間の国際競争が激しくなると予測される中、企業がさらなる発展を遂げるためには、そうした環境の実現が不可欠だろう。

全な生活を送りやすくなります」

地域社会では、「この地域をもっとよくしたい」と思っている人が発言しやすい環境があれば、小さなアクションが増えていく。そこに賛同者が集まり、地域を変える大きな力となっていくこともあるだろう。

「性別や立場といった様々な枠組みから解放され、一人ひとりが地域や社会のために自分は何ができるのかを考えて挑戦できるようにすることで、よりよい社会へと変化していくことを期待しています」

*3 石井氏が、次の資料を基に作図した。エイミー・C.エドモンドソン、野津智子(翻訳)。(2014). チームが機能するとはどういうことか:「学習力」と「実行力」を高める実践アプローチ. 英治出版. Edmondson, A. C. (2018). The fearless organization: Creating psychological safety in the workplace for learning, innovation, and growth. John Wiley & Sons. より一部改変。



クロスカリキュラム

生徒が人生を切り拓く上で重要な共通のテーマを
全教科・科目で設定し、授業を展開

山梨県立白根高校



写真左・下/1年生の国語の授業では、学校生活の中の“HAPPY”を紹介する中学生向けのポスターを制作。生徒が様々な場面における幸福について発表し、相互評価した後、国語科の教師は、“HAPPY”という概念を、家庭科で生徒が学んだ「地位財・非地位財」の観点で整理した。



2年生の国語の授業では、『山月記』の登場人物の心情から“HAPPY”について考察。「固定観念から自由になることで幸せになれる」「諦めない強い気持ちが大切」などと、生徒は作品を土台に自己理解を深めた。

どんな学び？

1 授業の内容は？

スクールスローガン“HAPPY”をテーマとした授業を、1・2年生を対象に、全教科・科目で実施しています。幸福とは何か、どうすれば幸福になれるのかを、各教科・科目の視点で考え、テーマについての理解を深めます。

2 育成を目指す資質・能力は？

次代を生きるために必要な、物事を多面的・多角的に理解する力を育みます。

3 なぜ、この学びが必要？

変化が激しい社会で、主体的に人生を切り拓くためには、自分の幸福観の確立が必要であると考え、本テーマを設定しました。

複数の教科・科目の視点で、特定のテーマについて考察

クロスカリキュラムは、特定のテーマについて、複数の教科・科目・単元を関連づけて横断的・総合的に学習する学びです。環境問題や人権問題など、問題解決のためには多面的なアプローチが必要なテーマについて学ぶカリキュラムを、複数の教科・科目の教師が協働して組み立てます。

2020年度から、本校のクロスカリキュラムのテーマは、「HAPPY」(Be Healthy / Active / Positive / Powerful / Yourself の5要素)としました。20年度は、国語科では、「HAPPY」をテーマにしたキャッチコピーの制作に取り組み、英語科では、身の回りのユニバーサルデザインについて調べ、英語でプレゼンテーションを行いました。また、理科(科学と人間生活)の生物分野では、「動物の学習活動の原理から、試行錯誤して実現できたことの達成感」を考察し、家庭科では、「共に生き、共に支える」の分野で、自分の幸せに必要なものを「地位財」と

「非地位財」に分類するグループワークを実施しました(図)。

テーマを多角的に考えることで、生徒に主体的な行動が表れる

今年度のクロスカリキュラムは、7月から実施しています。各教科とも、シラバスを作成する際に、どの単元・分野で「HAPPY」をテーマとした授業を行うかを検討し、作成した授業指導案を校内の共有サーバーに保存します。そうしてそれぞれの取り組みを可視化することで、他教科の授業で扱った内容と関連させた授業を実施することが可能になります。

幸福について、複数の教科・科目

の視点で多角的に考え、自分事として理解できた生徒は、その実現のために主体的に動き始めます。夏季休業中、「HAPPY」をキーワードに日常を見直し、高齢の家族のために手すりを作った生徒もいます。

スクールスローガンである「HAPPY」は、生徒たちが多様な価値観や目標を大切にしながら、互いに学びの意欲を高め、自己実現に向けた一歩を踏み出すために存在しています。生徒には、幸福を利他的な感情として捉えるのではなく、自分の人生を形作る重要な要素として理解し、「100年時代」の人生を生きる力を高校時代に身につけてほしいと考えています。

図 家庭科クロスカリキュラム「HAPPY」授業案(2020年度・21年度)	
教科・科目	家庭/家庭基礎
単元	ホームプロジェクト
本時の目標(ねらい)	自己の家庭生活と関連づけて生活上の課題を設定し、問題の解決方法を考え、計画を立てて実践することを通して、生活を科学的に探究する方法や問題解決の能力を身につけさせる。
授業の流れ	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中の課題として、幸せのために必要なものを挙げ、分類させる。 幸せのために必要なものを付箋に書く。(個人ワーク) 幸せに必要なものを「地位財」と「非地位財」に分類する。(グループワーク) 「地位財」と「非地位財」における、それぞれの幸せの持続性の違いについて理解する。(個人ワーク) 幸せに必要なものは、個人によって違うことを理解する。(個人ワーク) 幸せについての概念を確認した後、ホームプロジェクトの取り組み方に関するDVDを視聴する。 学習ノートのワークを使って、ホームプロジェクトの計画を立てる。(個人ワーク)

※学校資料を基に編集部で作成。



進路指導研究係主事
秋山香江
あきやま・かえ

教職歴37年。同校に赴任して9年目。家庭科。

学校概要

- ◎「自主自立」「進取研鑽」を校是として掲げ、スクールスローガン「HAPPY」の下、幸福追求を目的とするキャリア教育を推進する。
- シティズンシップ教育やローカルリーダー育成、地域探究学習など、多彩な教育活動を展開。ホッケー部やウエイトリフティング部などが、全国大会の出場経験を持つ。
- ◎設立 1984(昭和59)年
- ◎形態 全日制/普通科/共学
- ◎生徒数 1学年約130人
- ◎2021年度進路実績(現役のみ)
国公立大は、都留文科大、山梨県立大などに4人が合格。私立大は、東京経済大、早稲田大、健康科学大、山梨英和大、山梨学院大などに延べ69人が合格。短大・専門学校進学69人。就職8人。

VIEWn-expressでは、「ウェブで見学 学びのnext」で、同校のクロスカリキュラムについてさらに詳しく紹介!
(12月17日公開予定)

VIEW n-express 検索



美術室の前にずらっと並んだ石。今号の「発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介した愛媛県立三島高校に入校し、内海篤彦先生に案内された美術室の前で、生徒たちが楽しそうに石を立てていました。石は、何にも支えられず、自立しています。内海先生によると、立体的な創作物を作る上で、素材の重心を感じ取ることは大事なのだそうです。生き生きと創作活動に励む生徒たちの姿は、活動を「主体的・対話的」に学びへとつなげている様だと感じられました。

同校は、今年ノーベル物理学賞を受賞された真鍋淑郎氏の母校です。大先輩をたたえるべく、校舎の入り口に書道部が制作した横断幕が掲げられていました。のどかな海沿いの町が世界で活躍される人を生み出したのだと、感動を覚えた訪問となりました。(山本)



VIEWnext
高校版は

電子ブックで閲覧可能です

『VIEW next』高校版、『VIEW21』高校版2020年4月号以降の記事は、電子ブックでご覧いただけます。ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでご確認ください。
HOME → 教育情報 → 高校向け → 情報誌最新号

<https://berd.benesse.jp>

VIEWnext

高校版 2022年2月号

2月15日発刊
(予定)

『VIEW next』高校版は
年6回の発刊です

先生方からのご意見を
紹介します

Reader's VIEW

2021年10月号へのご意見

年度総括会で評価方法を共有

10月号の学習評価をテーマにした特集が、大変参考になった。中でも、福岡県立香椎高校が実践していた、日々の評価を記録する座席表型の評価表や、観点別学習状況の評価の年度総括会は、本校でも導入したい取り組みだ。特に、観点別学習状況の評価の年度総括会は、教師一人ひとりが自らの評価方法を振り返るきっかけになるとともに、教科間で評価方法を共有することもできる。各教科・科目の教師が、自分たちの取り組みを率直に伝え合えるような会にしたい。 静岡県立御殿場高校 松山 陸

学力を多面的に捉える意識転換を

本校では現在、2022年度から観点別学習状況の評価をどのように行えばよいかを議論している。しかし、現行からの脱却を図り、教師の授業改善や生徒の学習意欲の向上へとつなげようという話し合いにはなかなか進まない状況だ。10月号の学習評価をテーマにした特集を読み、学力を多面的に促え、それぞれのよい点を評価するといった意識を、我々教師一人ひとりが持つ必要があると改めて考えさせられた。

山口県・私立高水高校付属中学校 佐伯大介

生徒の「なぜ?」「不思議!」を探究のスタートに

10月号の「新課程に向けて描く『学校教育デザイン』」で紹介された鳥取県・私立青翔開智中学校・高校の取り組みは、まさしく本校が目指している形を実現したもので、共感するとともに、実践内容が大変参考になった。記事を読みながら気をつけたいと再認識をしたのが、本校でもあったことだが、すべての生徒において、探究学習と進路を結びつけなければならないと、教師が考えてしまうことだ。学びがキャリアに結びつくのは、多くが偶然的な産物だ。進路に直接結びつかなくても、生徒には、自分の「なぜ?」「不思議!」を大切に探究を深めてほしい。例えば、看護師志望の生徒が昆虫の研究に興味を持つことは、素敵なこと。関心の広がりを肯定することを、教師に推奨したい。

岩手県立花巻北高校 川村俊彦

伝統校の、地域人材の育成への使命感を感じた

10月号の「指導変革の軌跡」の岡山県立岡山東商業高校の記事を読み、生徒の問題解決力と自己管理能力を伸ばすことにより、地域経済を支える人材を育成するという、伝統ある商業高校としての使命感を強く感じた。教師のそうした使命感が、地域の活性化につながっているのだと思った。

長野県 匿名希望

いじめの防止と対応について多角的に学んだ

本校は学期に1回「安心・安全な学校づくり」調査を実施しているが、改善の余地がある。10月号の「学校危機管理 基礎講座」で紹介されたいじめの防止と対応は、一部の教師が抱え込まず、学校全体で取り組むためにはどうすればよいかという点で、大いに参考になった。教師の意識転換やリスク管理、働き方改革など、管理職として学ぶべきことが多い記事だった。

静岡県立下田高校南伊豆分校 谷野公彦

VIEWnext 編集部からのお知らせ

本誌特集テーマとも
連動!

自校の研修・会議に使える! 対話促進スキル向上・オンライン講座のご案内

学校と地域の連携を深める対話のあり方について考えます!



講師

認定NPO法人
カタリバ職員
大槌町教育委員会
教育専門官
菅野祐太

開催日時 2022年2月4日(金)
16時00分~17時10分

形式 オンライン(ライブ配信)

※お申し込みいただいた方に、
詳しい参加方法をご案内します。

参加申し込み締め切り 2022年1月28日(金)

参加費 無料

参加申し込み
受け付け中!

詳しくは
本誌18ページを
ご覧ください。

これからの学校を担う! オンライン勉強会のご案内
若手教師・教育創造 MTG メンバー企画

第1弾「目指せ、アクティブティーチャー! とともに一歩を踏み出そう!」

企画: 埼玉県立朝霞高校 教諭 浅見和寿

開催日時 2021年12月27日(月)
13時00分~15時00分

参加申し込み方法

右の2次元コード、または下記 URL から登録してください。
<https://enquete.benesse.ne.jp/forms/o/we8df68787/form.php>



形式 オンライン(ライブ配信)

※お申し込みいただいた方に、
詳しい参加方法をご案内します。

参加申し込み締め切り 2021年12月22日(水)

参加費 無料

ニューコンテンツ、続々

ベネッセ教育総合研究所ウェブサイト内のコーナー VIEWn-express リリース

「VIEW n-express」では、最新の教育現場の状況や取り組み、今求められている情報、現場の教師や識者のオピニオンなどを「express = 速達」でお伝えします。

アクセスは
こちら!



誌面で紹介した2つの授業が動画で見られる!

今号の「発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介した、愛媛県立三島高校・内海篤彦先生の美術の授業と、大分県立大分舞鶴高校・佐藤秀信先生の国語の授業の様子を、ダイジェスト動画でご覧いただけます。



▶佐藤先生の授業では、生徒がグループワークで活発に意見を出し合い、1つの答えを導いていく様子が分かります。

◀内海先生の授業では、生徒が「最も美しいと感じるチョウ」を探し、その言語化を通じて学びを深める様子が分かります。



VIEWnextのLINEをご登録いただければ、VIEWn-expressやVIEWnextの電子ブックに、ダイレクトにアクセスできます!

VIEWnext公式アカウント

LINE@

友だち募集中!

VIEWnextや教育に関連する最新情報をタイムリーにお届けします。

友だち登録をすれば、冊子の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届きます。

*友だち登録の方法は、右の2次元コードを読み取っていただくか、LINE アプリの

「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」とご入力いただき、追加をお願いいたします。



川崎義碩 先生

山梨県立甲府第一高校
Kawasaki Yoshihiro社会をよりよく
変えるために、
今すべきことを

人は生まれる場所を選べないのに、なぜ、生まれた場所によって人生が左右されてしまうのか。高校時代、中国でのボランティア活動をきっかけにそうした疑問を抱いた私は、社会的流動性を高めるためには公教育が鍵になると考えました。教職に就いた今、生徒が将来、社会に主体的にかかわって活躍できるよう、どの教育活動でも、非認知能力の育成を意識しています。生徒が1日の気づきや家庭学習等を記録する「日々新」^{ひびあたら}は、毎日クラス全員に提出させ、私が一人ひとりコメントを書いて返しています。日常生活の振

り返りの言語化を通じて、メタ認知能力や計画的実行力の育成を図るためです。

本校は昨年度から、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定を受けました。社会に貢献できる世界的視野を持つてほしいと、担当

する英語の授業で、常識やルールが通用しない状況にどう向き合つかを考えられる異文化コミュニケーションの疑似体験ゲームを行っています。1年生は入学してまだ半年ほどですが、クラスに課題が見つかること、よりよいクラスにしようと自ら行動する生徒たちに頼もしさを感じています。

本校では、教師は普通科・探究科の区別なく授業を受け持ちます。赴任1年目の私も両科の授業を持ち、それぞれに適した授業づくりを模索しています。そうした中、放課後に行く中国人講師の中国語講座を、生徒に交じって受講し始めました。私の教師としての成長に加えて、生徒が英語以外の語学に関心を持ち、大人になっても学ぶ大切さを感じてくれることにつながればと思っています。



生徒より

どんなに大きな目標でも応援してくれるのが、川崎先生です。読んでおくとよい本や学ぶべきことなどを、具体的にアドバイスしてくれま

す。「頑張れ」「あと少し」などと、「日々新」に添えられる一言も励みになっています。一緒に受けている中国語講座で、まだ習っていないフレーズを話す先生の姿から、目標達成後も新たなことに挑戦することの大切さを学びました。クラスがまとまってきた今、一人ひとりが主役になる学校づくりに、みんなが協力して取り組んでいきたいです。

かわさき・よしひろ 教職歴6年。同校に赴任して1年目。進路指導係、英語科。1学年担任。

山梨県立甲府第一高校
全日制／普通科・探究科／共学／1学年約180人／2021年度入試合格実績(現役のみ)国公立大は、東北大、筑波大、千葉大、東京学芸大、東京大、山梨大、京都大、大阪大などに161人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大などに延べ563人が合格。

お客様サービスセンター

フリーダイヤル 0120-350455 [受付時間] 月～金8:00～18:00/土8:00～17:00(祝日、年末・年始を除く)

株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社 〒700-8686 岡山市北区南方3-7-17